
31歳だめ男が、日本、世界に送るメッセージ。

青心

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

31歳だめ男が、日本、世界に送るメッセージ。

【Nコード】

N2633U

【作者名】

青心

【あらすじ】

東日本大震災を経験し、そこから思った事、感じた事、そして不思議な世界の事を書いていきます。

序章

2011年3月11日。

この日、日本は大地震と津波に襲われ、多くの死者、被災者を出しただけでなく、原発事故で日本中に放射能をばらまく事態へと発展した。

多くの日本人が放射能に恐怖し、これからの日本経済や、様々な問題に不安を感じているであろう。

海外のとある経済学者は、これから日本は大変貧しい国になるであろうと申しておった。

これを聞いて、わしは大いに憤慨した。

日本人をなめるなよ！

日本は、はるか昔から、戦いの中にさえも、精神性を求め、武士道という世界に誇れる精神を築き上げてきた民族である。

武士道を学び、大和魂を持つ我々は、不屈の精神を持つ民族である。

武士道を勘違いする者達があるが、武士道とは決して残虐非道なものではない。

多くの者が畜生とかす戦場でさえも、己の精神性を殺す事なく、己の美学を貫き通し、金銭、物欲ではなく、己の信じる心、相手の思

いにつくす事を重視してきた素晴らしき思想である。

わしの心が金ごときで動かせると勘違いし、目の前に大金を詰め、裏切りの話しを持ってくるような輩がいれば、わしは憤慨し、その者を斬っていたであろう。

わしの心が金で動かせると思うなよ！

わしはそんなものでは動かない、見くびるでない！

戦場に行けば、上の者は安全な場所に隠れて伝令を使い、自らは危険をおかさず、何かあれば、己のみ逃げるなどという事はしない。

自分だけおめおめと逃げ帰るなら、切腹を選ぶ事ができる人種である。

部下が命をかけて逃がしてくれるなら、それは恩義として忘れる事のできないものとなる。

我々は部下と共に戦い、自分の命をかけて戦える民族である。

上の者が危険をおかさず、人間性も示せない中、部下がどうして命をかけてくれようか。

我々は、自分の肉体と共に、精神性も磨いていたのである。

そして、あなた達も、間違いなくその血を、文化を、受け継いでおるのだ。

第二次世界大戦中、国中を焼け野原にされ、300万もの死者をだ

したが、日本は奇跡と呼ばれる復興を成し遂げたではないか。

今こそ、日本の力を見せる時であるぞ。

しかし、しばらく現在の日本を観察すると、我々は、昔の日本と今の日本が大いに違っている事に気付てしまった。

なんなのだこれは！

国のトップが迷走し、率先して動く事なく、リーダーシップがとれていないではないか！

原発を収束させようとしている連中は、部下にばかりまかせ、まるで奴隷のように扱っているではないか！

本来率先して戦場に出るべき立場の人間が、逃げ出し、放棄し、自己弁護ばかりしておるではないか！

そこにおる、国民の意志、命はどうなっておるのだ。

自分の名誉、立場を守る事のみを重視しておるではないか。

民を救ってくれ、大好きな日本の自然を救ってくれ。

こやつらは、一体何をしておるのだ。

これは、私の感性に訴えてきた叫び、思いである。

今回の震災では多くの死者、数えきれない被害を出したが、これを意味のないものにしてはならない。

どんな逆境にも、そこから学べるものは確実にあるのだ。

今回の震災で、津波、地震、原発問題に対して、何らかの対策をしなければいけないというのは、明らかになったであろう。

しかし、地震、原発、津波問題と同等かそれ以上の問題が、今回明らかになったのだ。

経済至上主義、金儲け、学歴などを重視し、精神性を、心をおろそかにした教育がもたらした人害である。

心ないリーダーは、平気で国民に放射能被害を与えるであろう。

金銭を重視するものは、原発利権に飛びつき、多くを隠ぺいするだろう。

私の使命は、この人害を少しでも減らし、あなたの精神性を上げる事。

経済至上主義ではなく、心の豊かさの必要性を訴えていく事である。

これはリーダーに限った事ではない。

多くの日本人、そして世界中の人の問題である。

しかし、日本人は私の思いが一番届く人種なのである。

精神性を、心を大事にしてきた多くの先人と同じ祖先を持つからだ。

そんな思いをこれから形にしていく事にする。

これはナポレオンヒルを読んだため男の小説である

<http://ameblo.jp/ganbareddameomajide/>

教育と精神性1

多くの人は、TVだけでなく、新聞やインターネットなるもので、震災時の対応の遅さ、悪さ。

簡単に言えば、不誠実さを目撃したはずだ。

とある記者がこう投げかける。

あなたはアレを指示したのですか？しないのですか？

答えは二択しかない。はいかいいえだ。

しかし、とある企業のトップは、手元に書類がないのでわかりませんとぬかす始末。

書類の話ではありません。私は、わずか数日前にあなたが指示したか、しないかを聞いてるだけです！

これを聞いても、そやつは手元に資料がないのでわかりませんと言いきるではないか。

企業のリーダーというものは、会社の顔 社風そのものであるぞ。

こやつは、会社に都合の悪い事があれば、痴呆よろしく わずか数日前の記憶すら無くしてとぼけてしまえと、手本を見せておるのだ。

こんな企業の部下は、調べるまでもない。

走って行く先は現場ではなく、自分の保身に走り、自然や人々の健康を心配するのではなく、自分の財産の行く末を心配している事である。

いや違う！我々は心配をしている。

自分が受け持っている企業の失態は、我々が率先して解決するのが当たり前だ。

被災しながらも、命をかけ、現場で働いてる人達がいるのだ。

子会社が困ってるなら、親会社の我々が動くのが当然ではないか。

親が子を見放してどうする。

少数ながらも、中にはこのように思い、行動している者もいるかも

しれぬが、ここで一つ問題提起をしたい。

はたして、このような考えは正しいのだろうか。

我々の感性からすれば、上記のようなセリフを言うのが当たり前、手を貸そうとしないのが異常とうつるのであるが、実は、これを正しくないと言えはって言える輩が存在する。

親会社が苦勞しないのは当たり前。

だって、子会社の人達は、親会社の人になるような努力もせず、その能力もなかったんでしょ。

能力がない人が苦勞するのは当たり前よ。

私は、あるファーストフード店に行くと、息子にこう言うの。

。ちゃん、きちんと勉強して、お金を稼げるようにならないと、一生あそこで肉を焼くだけの人生になっちゃうわよ。

そうならないように、きちんと勉強してね。

わしは、思わず声をはりあげた。

ふざけるな！と。

教育と精神性2

働いている人の人間性も調べる事なく、職業のみで人を見下すとは何事か！

おぬしはその店で子供と一緒に食事をする時、厨房の男性が可哀そうとか、経済的に豊かでなくて、あわれと思っているのであるうが、そんなお主にこそ、わしはこう言う。

おぬしのほうがあわれだと！

その店で食事が出るのは、おぬしがあわれだといった人が作るから、美味しく食事が出るのだ。

その食事は、様々な人の手を得て作られ、生きていた動物と植物の命をもらって作られているのであるぞ。

そして、厨房の人が手を抜く事なく作るからこそ、美味しく食べる事が出来るのだ。

感謝はされても、ばかにされる道理は微塵もない。

食事は家族団らんを感じとれる場所であり、他の生物の命を、ただ、事でありたっている。

食事に困らないように働いてくれる親、そして命をくれた生命に向かって有難うの気持ちをこめ、日本人はいただきますと、言うようになった。

経済的に豊かになるために、肉を焼くだけの人生になるとこやつは言うが、ここで働いている人の人間性 性格や夢は見ているのだろうか。

このファーストフードの店主が、人と関わる事に生きがいを見つけ、料理が好きでこの仕事を選んだとは考えないのだろうか。

わしは、このようなお年寄りを見た事がある。

そやつは、わずか数十円とつ、安いお菓子を売っておった。

昭和という時代にはよく見られた、バクダンと呼ばれるお菓子らしい。

そのバクダンを、極力値段を上げないように努力をし、こやつは死ぬ間際まで、この仕事を続けておった。

ニュースにも取り上げられ、記者がこう質問しておった。

値段があまりに安いと思うのですが、大丈夫なんですか？

この大丈夫というのは、商売として成り立つのか。そこまで安くして、生活するのに困ったりしないのか。そんな意味を込めた、大丈夫で、あるが、こやつは満面の笑みでこう答えておった。

私は、子供たちの笑顔を見るのが大好きなんです。

このお菓子は、子供達が気軽に買える値段だからこそ意味がある。

私のお菓子を食べて、喜んでくれる人がいる。

こんなに満足な事はありません。と。

おそらく極貧の暮らしをしているであろうこやつのは、いつも幸せに満ちていたのだ。

幸せは、決してお金の量だけでは決まらない。

金の量のみで、人を見下す事の、なんと愚かな事が。

食事のありがたみを教えるのではなく、金のありがたみを教えられた子供の行く末は、言わずもがなである。

親と同じように、金の価値で人を判断するようになるのである。

現在の教育

今までの記事まとめ

人間性を見ず、金を重視する教育の実例を挙げたが、では、現在の教育とはどうなっているのだろうか。

子供の学力に重点を置いた教育が目につき、早期英才教育とつものもあるのだが、中には英才教育に拒否反応を起こす人がいる。

英才教育には異論も色々あれど、かなりの成果を上げているのも事実である。

とある国の学者が、人の頭の良さは環境で決まるのか。それとも、親で決まるのかを判断するため、スラム街の子供も対象に入れ実験を始める。

実験の対象に選ばれた子供は、母親が教育を受けておらず、父はいないという子供だったのだが、その子は0歳から英才教育を受け、

数年後には、超エリート大学に合格する程の知識を持つ学生になっていた。

その他にも様々な実験を重ねた結果、0歳から教育を受けた人と、そうでない人では、3歳になる頃には、とてつもない差が開いている。

親では決まらず、環境で決まるとの研究が発表されていた。

英才教育で有名なのは、七田式、ドッツ、横峯式など色々あるのだが、例をあげるなら、3歳で数桁の足し算が出来たり、漢字が読めたり、抜群の暗記力を発揮したり、瞬間的に数を数えたりなど（瞬間記憶、瞬間計算、速読、瞬読）にわかには信じがたい能力を発揮するようだ。

しかし、この話をする、と、9割以上の人が、子供がおかしい人間になりそうでイヤ。

人を刺しそうな人になりそうでイヤ。

と、拒否反応を起こす。

ここで私が言いたいのは、実は、英才教育の素晴らしさではない。

学力の教育と、心の教育は別物だと言っ事だ。

学力のみを重視されたからと言って、子供が素直に育つか。

そんなわけではない。

むしろ逆だと考える。

現在の教育 2

早期英才教育、特に勉強ばかりに力を入れると、子供がおかしくなりそうとの意見には同意したが、なぜだろうか。

前回の記事でも言ったように、心の教育と、頭の教育（勉強）は全くの別物だからだ。

勉強しろ。あれも覚えると言われたって、親に愛されると感じる者はいない。

与えられてるのは、勉強しろというプレッシャーであり、愛ではないからだ。

窮屈になり、やらされると感じだしたら、更に手に負えないものになり、子供の心は益々すさんでしまうだろう。

現在の教育を見渡すと、勉強（知識）の教育、経済（金儲け）の教育にはとても力を入れていると感じるが、心の教育に関してはどう

だろうか。

私が今回の震災で一番感じた事、そして訴えなければいけないと感じたのが、この心の教育の部分である。

日本は古来から、心の教育にも力を入れてきた民族である。

世界史には詳しくないのだが、ここまで心の教育に力を入れてきた民族は、中々いないのではないかと思うほどだ。

日本の心の教育としては、様々なものがあるが、仁・義・礼・智・信・勇・忠・孝・悌・和の言葉で説明がつくと思うので、この言葉を引用させて頂く。

仁・・・思いやり、慈しみ。

義・・・人道に従うこと、道理にかなうこと。

礼・・・社会生活上の定まった形式、人の踏み行なうべき道に従うこと。

智・・・物事を知り、弁えていること。

忠・・・心の中に偽りがなく、主君に専心尽くそうとする真心。

信・・・言葉で嘘を言わないこと、相手の言葉をまことと受けて疑わないこと。

考・・・おもいはかること、工夫をめぐらすこと。親孝行すること。

悌・・・兄弟仲がいいこと。

これを見てもわかるとおり、もし勉強のみの教育に偏ってしまうならば、智のみに偏ってしまい、思いやりや礼儀、人の道からはずれないなどを教えない事になってしまう。

そして、これは現在の日本、そして世界でも言えることだが、この心のあり方を教える事ができる親、教育機関がとてまもなくなくなっているのではないだろうか。

人の道からはずれず、正義の道を行き、人を思いやる大事さを教えている親はいるだろうか。

金の大事さ、将来の出世、勉強の大事さは教えても、人を思いやる心を教える親は、どの位いるだろうか。

この心の教育の欠如こそが、日本や世界の、混乱を招いているのではないだろうか。

リーダーが責任を取らず、逃げ出す。

エリート意識から他人を見下す。

忠義ではなく、わいろなどで人を動かす。

素晴らしき武士道、大和魂が生きている時代の優秀なリーダーなら、率先して危険な場所に行き、部下の士気を高め、金で心を動かさそうとする輩がいれば、自分の信念は金より重いと激怒していた事だろう。

私が今回の震災で感じた事は、国は天災で滅びるのではなく、人災で滅びるという事だ。

とりわけ、リーダー、社会的地位があると言われる人に、心の欠如がみられる場合、事態は深刻である。

そして、その事態は、この日本で間違いなく起こっている事である。

それを踏まえ、自分がこのブログで訴えていきたいのが、心の中でもとりわけ愛の大事さについてである。

子供の教育とは、どんなものだろうか。

これは、実は会社での生活と同様に考えると、非常にわかりやすくなる

子育て

子供が生まれたとして、あなたはどのように育てるだろうか。

厳しく育てようとする人もいれば、自由奔放に育てようとする人も
いる。

英才教育に取り組む人もいるだろうし、育て方は十人十色になるは
ずだ。

しかし、子育てをするにあたり、私から言っておきたい事がある。

子育てとは、子供を育てるだけでなく、自分自身も成長していく心
構えと、家族を大事にする深い愛が大事だと言っ事を。

前回話した勉強の話を例にとってみよう。

勉強のみを叩きこまれては、子供の心の成長は難しいという話しはしたが、では、どのような勉強、教育の仕方なら、子供は素直に学んでくれるのだろうか。

1 ・勉強を教えてくれる親から愛を感じ取れる場合。

2 ・目的意識がきちんと伝わっている場合。

3 ・楽しく学んでいる場合。

4 ・子供自身が勉強の先の夢を見つけた場合。

大まかな分け方ではあるが、この4つの項目について説明していきたいと思う。

まず、1の勉強を教えてくれる親から愛を感じ取れる場合について。

教育が厳しくても、子供自身が、これは自分の事を思っただけで教育させてるのだと理解した場合は、多少ストレスが軽減される。

多少と書いたのは、愛を感じる事が出来ても、その行為が本人にとって重荷である場合は、辛い事であるのは変わらないからだ。

ここで注意して頂きたいのが、愛を感じる場所は、勉強のポイントにあるのではなく、日常生活にあるという事だ。

子供は日常生活で、愛されているか、そうでないかを敏感に感じ取る。

ストレスと感じる行為を続ける事は、忍耐力を養う上で、とても大事な事ではあるのだが、物事には限度というものがあり、それが耐えきれなくなった時に、精神に影響してくる。

勉強ばかりを教わり、ストレスの発散方法もわからず悶々と暮らしていれば、それこそ勉強ばかりが出来て、頭のおかしい人になってしまう。

これを避けるために大事になってくるのが、厳しい時とそうでない時の、ON OFFである。

実は、教師、もしくは教育熱心と呼ばれる人の子供には、不良と呼ばれる人や、グレたくなっている人が多いのは知っているだろうか。

不良を更生させる事を生業としている方が、TVで言っていた言葉なのだが、私自身も、これまで関わってきた人を見て、実際にそうだと感じる。

私が見た中で共通していたのが、常に教育者であろうとし、子供に妥協を許さない。

家でも、いついかなる時でも先生のようにふるまう。

そして、過剰な期待と、束縛であった。

これでは、子供の息がつまってしまふ。

自分の事を思ってくれてる、愛しているからこそ、こういった事をするのだと理解していてもだ。

そこで大事になるのが、厳しい時とそうでない時のON OFFである。

子育て 料理

勉強、そして色々なスポーツなど、親が覚えさせたいものは多種多様になるであろうが、親がこれを覚えてほしいとピントを合わせるものがある場合、それを教えている時は、厳しくても全然かまわないし、その厳しさは、子供の忍耐力をつけるには、間違いなく役にたつものだと、私自身も思っている。

問題なのが、前回言ったように、息を抜く事ができず、常日頃からプレッシャーを受け、束縛されてしまっていると感じた場合だ。

これでは、子供自身が親の愛からくる行動だと理解していても、窮屈に感じてしまう。

親が過剰に子供をコントロールしようとしなない事が大事ではあるが、厳しさの中に、愛を感じさせるにはどうすれば良いだろうか。

日常生活の触れ合いの中で、厳しさの中にも愛がわかるような振る

舞いが出来れば良いのだが、手軽に愛を感じるようになる、お勧めの方法がある。

それは手料理をする事だ。

たかが料理と言う人もいるだろうが、ここで一つの出来事を例に挙げてみよう。

とある家では、毎日のように高級料理が出ていた。

母親は全く料理を作らず、お金を与え、食べたいものは勝手に注文してくれという暮らしを長年続けていた。

小学生のその子の家では、当たり前のように出前の中華やお寿司が並ぶ。

しかし、近所に住む友達は、その様をよく見ていたのだが、子供心でも、なぜか羨ましいとは思わなかった。

自分の家では、高級ではない普通の料理で、友達の家が特上寿司でもだ。

いつものように、友達がその人の家に遊びに行くと、案の定、出前の料理が出ていたのだが、友達が遊びに来ているにも関わらず、その子は母親に向かって怒りの声をあげた。

不味くたっていい！手料理を作ってくれよ！

そのセリフを発端に、更なる口論が友達の前で繰り広げられたのだが、親が料理をしないのが当たり前の暮らしに嫌気がさし、不満が爆発したのだろう。

友達がいても抑えきれなかったのだから、その心境は容易に察する事が出来る。

どんなに美味しい高級料理も、親が作ってくれた手料理にはかなわないのである。

たとえ、料理が不味くてもだ。

このやり取りは、実は私の友達の家での出来事なのだが、料理と愛について語る良い例だと思って取り上げさせてもらった。

料理が伝えるのは味だけでなく、‘思い’であり、中でも、愛を効果的に伝える不思議なパワーがある。

女性に質問しよう。

片思いでも良い。あなたに愛する人がいる場合、その彼が、あなたに向かってくを（くは何でも良い）食べたいな、作って欲しいなど言ったらどう思うだろうか。

料理に対する不安を感じながらも、それ以上の喜びは感じないだろうか。

もし、男性があなたの手料理を食べたいと、間接的、直接的に言うてくる場合は、実は味はあまり考えていない。

あなたの料理が食べれる事、その事自体が嬉しから頼んでいるのだ。

そして、その料理を食べる事が出来た彼は、更なる幸せに包まれる。

あなたの手から生まれた作品で、こんなにもストレートに心を動か

すものは中々ないのでないだろうか。

しかも、それは、日常的に生産可能という特権までついているのだ。

子育て 料理2

手料理とは、なんと不思議なパワーをもっているのだろう。

食欲が満たされるだけでなく、心まで満してくれるのだ。

しかし、こんな力を持つ手料理だからこそ、家庭から少なくなると、家族の心にはぽっかりと穴があいてしまうのだ。

外食や、できあいものばかりでは、食欲だけが満たされ、心が満たされない、心の栄養不足状態になってしまう。

もちろん直接の面識があるわけではないが、ボクシングの亀田一家を見ると、厳しさの中にも家族愛があるなど、いつも感心してしまう。

一見するとスパルタのような教育方法に見えても、子供は親を尊敬している。

父は、間違いなく普段から厳しいだろうし、練習中は更に厳しい存在となっていてものだ。

TVを通して見る父は、厳しさの中にも、子供のためにしてあげれる事は、してあげようという気持ちが見える時がある。

私がそれを一番感じるのが、父が料理を作っている時である。

今や大金持ちになったであろう、亀田一家の食事は、TVで見るといつも父が作っている。

既製品を買う事や、外食に行くのはたやすいはずなのに、父は変わらず料理を作っている。

父が作った料理を一家が囲んで食事をする。

昔の日本では普通だった、家族が一つの食卓を囲み、話しをする事。

一家団らんの姿がそこにはある。

この一家団らんの姿が、今の日本では、非常に少なくなってるのではないだろうか。

厳しいばかりでは、子供は窮屈に感じ、うつとしい親と感じてしまふようになる。

それを回避するためにも、厳しい時とそうでない時のON OFFをし、手料理をし、一家団らんの時間を過ごしてみてはどうだろうか。

厳しく、無口な父親だとしても、一緒に食事を取り、同じ空間を共有した事で、家族の愛の受け取り方はだいぶ変わるのではないだろうか。

厳しくしつけるのに、食事の時間は別々、料理も外食ばかりで、ろくな会話もない家庭と比べてみれば、その差は一目瞭然である。

子育て 環境

家族で手料理を食べ、一家団らんの時間を過ごす事を伝えたが、貴方の家ではどうだろうか。

忙しいからと言って、外食にしたり、子供と食卓を囲んで話さなくなっているという事はないだろうか。

昔の娯楽と、今の娯楽は、その様が激変している。

昔は、鬼ごっこにしても、コマにしても、必ず相手がそこにいたのだ。

そして、そこから社交性も磨かれ、友情も育まれてきた。

しかし、現代の子供の娯楽は、TVとゲーム、パソコンがあれば、

全てが足りてしまう。

全てが足りてしまうが故に、わざわざ外に出る事もなくなり、家で遊びに従事するようになる。

ネットにも、社会、が築かれているが、それは、昔の社会とは確実に違う、異質の世界である。

負の情報は、意図せずとも次々と入手できるし、向こうからもやってくる。

そこでの会話に終始する事により、逆に実社会の社交性が失われるという、逆転現象まで起きてしまう。

貴方の子供はゲームやPCに夢中になっていないだろうか。

子供が楽しんでもうに見えても、そして、実際子供が楽しんでいたとしても、心が失われていつてる可能性があるのだ。

昔より、今の時代のほうが、愛を多くやらねば、負の誘惑がすぐそこで待っている世界なのだ。

そんな時代の中、貴重な家族団らんの時間を減らし、親の愛を感じる事が出来る手料理を作らない事が、いかに恐ろしい事かわかるだろうか。

勉強、教育に力を入れるのは良い事だ。

しかし、そのみに偏ってしまつては、子供の心は壊れてしまう。

そして、すぐ目の前にある、負の門をくぐってしまふ。

それを防ぐためにも、日頃からの親子の触れ合い。

会話。

一家団らん。

家庭内の愛を大事にするべきではないだろうか。

スポーツの勧め

受験勉強に追われている子供や、会社でストレスがたまっている大人は、どこでストレス発散をしているだろうか。

今の世の中は、ストレス社会だと言われる。

娯楽の数は昔に比べれば遥かに増え、世間も平和になっていると言
うのに、ストレスは今尚、人々を苦しめ続けている。

そんなストレスを撃退する、とてもいい方法があるので、ここにお
勧めしたい。

それはスポーツをする事。違う言い方をすれば、汗を流す事だ。

受験勉強で悶々としているストレス、仕事でうまくいかないストレスも、汗を流す程の運動をする頃には、ストレスではなく運動に集中していて、いつの間にかストレスは飛んでいる。

汗を流すのは、体の感覚としても気持ちがよく、スッキリする。

心も体もリフレッシュできるのだ。

現代は、大人も子供も、体を動かさな過ぎる。

悶々としたエネルギーが向かう先がある人は良いが、その方向性がない人は、ストレスを貯める一方になってしまい、それが様々な異常になって現れる。

しかし、スポーツは性別や個人の趣味にかかわらず、及ぼす影響は

同じで、悪い影響はない。

体の動かしやすさが増せば、仕事にも影響がでる。

スタイルが良くなれば、周りからの見る目も変わる。

スポーツに取り組めば、目標を設定し、それに向かうという事を、
子供の頃から考えられるようになる。

負ける事、勝つ事で、心も体も成長のきっかけを与えられる。

人脈も増える。

本当に良い事だらけだ。

皆さんも、散歩や柔軟からで良いので、体を動かす事に取り組んでみてはどうだろうか。

次にストレスがたまった時は、腕立てでも腹筋でも、マラソンでもよいので、ストレスのイライラを原動力に体を動かしてみよう。

そのイライラが運動量を増やし、運動に夢中になる頃には、ストレスを忘れていくはずだから。

子育て 怒り方

以前、子供が素直に教育を受けてくれる四つの要素をあげたが

1 ・勉強を教えてくれる親から愛を感じ取れる場合。

2 ・目的意識がきちんと伝わっている場合。

3 ・楽しく学んでいる場合。

4 ・子供自身が勉強の先の夢を見つけた場合。

これまで語ったのは、1 についてのみである。

さらに言うなら、厳しくしつけ、そこに愛を感じさせるにはどうしたら良いかに関してのみである。

では、他はどうなのか。

また、厳しさと心をメインに、独りよがりの理論を語るが、お許し願いたい。

高齢の人によくありがちな事なのだが、怒り方が下手だと感じる時が多々ある。

例えば、子供が何かをミスったでしょう。

そこで、ただ怒りをぶつけ、罵倒する事に重点を置き、それを持って厳しくしつけると思っている人がいる。

しかし、大事なのは、罵倒する事ではなく、同じミスをさせない事である。

罵倒し、批判を与えるのではなく、与えるべきは、改善策のほずである。

厳しくしつけているであろう人の中に、私が尊敬する松岡修三さんがいるのだが、彼は全力で怒っている。

どなりつけている。

しかし、怒り方が前向きで、目的意識もはっきりと伝えているのが素晴らしいと感じる。

例えば

お前は何をやってもだめなやつだ！使えないやつめ、辞めてしまえ！

というのがあるが、言った本人は、相手が何くそ、と思ってくれる事を期待していたとしても、言われた人に残るのは、今に見ている！という、恨みに似た感情であり、それすら無い人には、へこみ、自分は使えないという絶望しか残らなくなり、場合によってはつぶれる。

ところが、松岡さんは

お前は何をやってるんだ！日本一を目指すじゃないのか！

お前はもっとできるやつだろう！やる気を出せよ！燃えろよ！こんなでいいのかよ！

と、厳しい言葉の中にも、日本一という目的を示し、励ましながら、怒っているのだ。

これを言われた人は、自分は日本一を目指せるのかという、希望までも持つ事ができる、怒り方である。

怒りの中にも、目的意識と、信頼が含まれ、怒られた人も、目指してやる！という気持ちを掘り起こせる、素晴らしい教育方法だと、私は思っている。

これは私の勝手なイメージであるが、日本人で、現在高齢の方の教育は、怒鳴り、怒られがメインだったのではないかと思う。（目的意識とか改善策を伝える怒鳴り方ではなく、怒りをぶつける怒り方）

そして、それを正しいと思い、現代でも行っているわけだが、私はそのやり方には、正直ハテナがつく。

このような話を聞いた事があるので、例をあげておきたい。

とある日系企業が海外進出した際、日本人は事あるごとに、現地の外国人を怒鳴りつけた。

些細な事でも、こんな事もわからんのかと、怒鳴りちらすのが当たり前だったようだ。

そんな中、現地の人のプライドはズタズタにされ、仕事の意欲もなくなり、とうとう辞め出す人が続出した。

そんな状況を見かねた現地の人々が、日本の責任者にこう言った。

彼らは立派な人間です。

彼らにもプライドがあります。

怒るのではなく、信頼を持って接してくれませんか。

怒りを持つのではなく、彼らが誇りを持って、仕事が出来るように
できませんか。

これを聞いた責任者はハツとした。

自分は、彼らを信用していただろうか。

この仕事に携わっている彼らの心を、見ようとしていなかったの
ではないか。

その日を境に、日本人は接し方を変えた。

怒るのではなく、改善策を。

こんな事もわからんのか！ではなく、わからないならば、教育を。

接し方を変えた結果、仕事の効率も上がり、職場にも笑顔が増え、
覇気もみなぎり、辞める人は激減。

そのチームは、見事そのプロジェクトをやり遂げ、メンバーには充
実感と笑顔が満ちていた。

信頼の大事さを実感した時であった。

子育て 怒り方2

同じような労働環境にありながら、日本人が接し方を変えただけで、人々は覇気と笑顔を取り戻した。

信頼とは、なんと素晴らしい力を持っているのだろう。

そして、ここでもう一つ、注目してもらいたいのが、労働条件事態は変わっていないのに、接し方を変えただけで人々の態度が激変し、仕事の問題なく終了したという事だ。

笑顔があふれ、覇気が満ち、仕事は順調に進む。

仕事の量が減ったわけでもなく、プロジェクトの納期が遅くなったわけでもない。

変えたのは、接し方。

むやみに怒らず、怒りではなく、改善策を言い、信頼を持って接する事。

仕事内容が変わったわけでは無いので、肉体的な辛さは、以前と何も変わっていないだろう。

しかし、辞める人が続出したそのプロジェクトは、現地の人に信頼を与える事で、辞める人が激減し、プロジェクトも大成功を収めたのである。

この、怒らず教育をする方法というのが、実は、今の日本の職人の世界でも見直され、取り入れられている。

とある会社の例をあげよう。

昔は、職人の技は見て盗めだった。

そして、怒鳴りちらすのが当たり前だった。

・もちろん定着率もわるく、離職者は後をたたなかった。

この状態が当たり前だったため、誰も疑問に思わず、耐え、盗み、仕事に励み、辞めた者は根性無しだ、という状態が、平成の世まで続いたわけだが、その会社は大改革を決心する。

改革案は、主にこの二つ。

1、怒る事を禁止する。

2、見て盗むのではなく、研修制度を設け、技術を習得させる。

この結果、仕事を辞める人が激減し、定着率も良くなり、更に、今まで数年かかっていた技術習得が、数か月に短縮されたと言っていないか。

結果、会社は業績も上がり、定着率も増した事で、ベテランも増え、技術レベルもアップした。

数年が、数カ月である。

これには心底びっくりしたが、見るだけで触らせてもらえないのを、バンバン触らせ、ポイントを教え、技術を仕込み、更にそのみを習得させれば、人間はここまで成長を早める事ができるのかと感心したものである。

そして、この方法は、子育てにも、そのまま当てはまると、私は思っている。

怒り、罵声がなくても、子供は一流に育つ。

むしろ、それが無いほうが、より一流に近くなるのではないかと思うほど。

子育て 怒り方3

前回の記事で、怒り、罵声がなくても、子供は一流に育つのではないかと言ったが、本当にそうであろうか。

いつものように、例をあげよう。

これは、とある球技の、全国大会の話である。

上位に残ったチームは、どのような環境で練習し、どのような意気込みを持ち、この全国の舞台に來たのか。

TV番組は、私生活にも密着し、その現状を伝えていた。

どのチームを見ても、練習はとても厳しいし、熱血漢の先生の声が飛んでいる。

中には、泣いている生徒さえいる。

その言い方は、私が尊敬している松岡修三さんのように、罵倒と思える言葉の中にも、励まし、目的意識を伝え、お前はそれでいいのか！というスタンスである。

しかし、練習では鬼になっている先生も、練習が終わると生徒を引き連れ、自分の家に招待し、妻の手料理を食べさせ、談笑し、お前なら全国で優勝できるはずだ、俺は信じている。と、涙ながらに話し、生徒を励ましているのがあった。

厳しさの中にも、信頼 生徒への思いやり、愛があり、生徒も先生も、共通の目標である、全国優勝を夢見て進んでいる。

なんと素晴らしいチームだ。

これが、ほぼ全てのチームに共通していたのだが、例外が1チーム存在した。

どのチームも、熱血漢の先生が率先し、チームを引っ張っていたのだが、そのチームの先生は、練習に参加していない。

生徒が練習している時に、花に水やりをしている。

常にニコニコ笑顔をたやさず、スポーツをやる人にも見えない。

レポーターが、こう質問を投げかけた。

先生は練習に行かないんですか？

たまに顔を見せるけど、私は練習に参加しません。

花が好きですから、花壇をいじってるほうが多いです。

練習は生徒が勝手にやってますから、心配していません。

これを見た時の私の感想は、このチームは絶対優勝出来ないであつた。

しかし、驚くなかれ、全国優勝したチームこそ、このチームなのである。

子育て 怒り方4

全国上位に入る強豪中の強豪でありながら、先生が指導をしてない。

そんな馬鹿な。

スポーツは、熱血漢の指導者が指導し、同じ空間を共有する事で達成できるものではないのか。

全国上位を目指すチームならば、罵声にも似た声がとび、しごき、しごかれ、そこを乗り越えた者のみが辿り着く境地だと思っていたのだが、その例外を見た衝撃たるや、想像もつこう。

全国優勝したこのチームには、熱血漢の先生がおらず、罵声も存在してなかったのである。

では、なぜこのチームが優勝する事ができたのであろうか。

明らかに他のチームと違った場面が、指導者の他にも何点があったのであげておく。

1、子供達が自主的に、全国を目指せるほどの激しい練習¹をしている。

2、既に卒業した先輩が練習に参加し、後輩を指導する。自分よりも上位の人と常に対戦できる環境である。

子供達は、心底この競技が好きだったようで、卒業しても続けたいといい、怪我で練習に参加できない人は、参加したいと泣いていた程だ。

部活だけでなく、家に帰っても練習をしている子もいた。

全国クラスの激しい運動量である。

逃げ出したい心境にかられても、なんら不思議ではない。

しかし、練習に参加したいと泣きだすのである。

‘子供達自身’が全国優勝という目的意識を持ち、競技を愛し、その競技を楽しんでいる。

その結果、自主的に茨の道に進み、他人が見たら茨と思える道すら、

楽しんで乗り越えるようになったのである。

彼らを動かしたのは、コーチの罵声ではなく、親の気持ちに答えようとする気持ちでもなかったのだ。

子育て 怒り方5

子供達を動かしたのは、厳しいコーチの罵声でも、親への期待に答えるためでもない。

子供達自身が、自分の目標を達成するために頑張っていたのだ。

心に決めた目標、目的がある人を、日本では、信念のある人。志しのある人と言う。

志しがある人間は強い。

自ら進んで、地獄と思うようなトレーニングもこなすようになるのだ。

しかも、目標を達成するには、辛いのはあまり前だと思う、気構えさえ持つようになる。

いや、他人が辛いと思うような状況すら、楽しく思う人だっている。

私は格闘技が好きなのだが、世界トップの選手を何人も輩出している、シュートボクセの練習風景が印象に残っている。

選手がサンドバックを叩くと

お前のパンチはミサイルだ！

このパンチを食らったら、相手は間違いなくKOだ！

うひゃー、凄い打撃だぜ！

と、次々と選手を褒める言葉が飛んでいるのだ。

これが日本なら、どうだろうか。

日本で、世界トップクラスの選手を次々と輩出した道場の練習を、映像で見た事があるのだが、そこではこんなやりとりが行われていた。

何やってんだクソが！これがお前の本気かコラ！バチーン（竹刀でぶんなぐる）

何だそのケリは！もっと本気だせコラ！バチーン（ビンタがとぶ）

肉体的なハードさは、どちらもかなりのものであろう。

しかし、精神的な面で言ったらどうだろうか。

どちらもハードな練習をしている中、励まされ、持ち上げられて練習するのと、怯え、もしくはコイツめ！と思いながら練習するのは、あまりに影響が違うのではないだろうか。

上記は、志しの他に、厳しい練習中にも褒められ、そこに楽しさを見つけるかもしれない。

しかし、下記の場合は、厳しい練習、厳しい罵声に耐えるのは、自

分の志しがあればこそであり、それがなければ潰れる環境なのである。

これを見ると、格闘技の面識がない人は、イジメだと思うだろうし、気分も悪くなるであろう。

しかし、格闘技好きの私からすれば、このくらいが当たり前だと思っていたし、ひとむかし前に話題になった、可愛がりも、強くなるための洗礼のようなものだと思っていた。

スポーツで一流を目指すならば、厳しい環境にさらされねばならない。

これは、多くの日本人に共通した認識ではないだろうか。

誤解があるかもしれないが、このコーチは、ただ怒鳴っているのではなく、きちんと理論があって怒っている。

1、精神を鍛えるために厳しくする。

2、怒り状態になる事により、普段発揮されない程の力が発揮されるようになる。

これは、どちらも正しい理論である。

しかし、昔はこういった行為を肯定していた私だが、今となっては、志しを持った人間にとって、可愛がりと思えるような行動は、必要がないものだと思えて仕方がないのだ。

いや、志しなど関係なく、可愛がりはあるとはいけないとさえ思っている。

子育て 怒り方6

格闘技の他に、私は軍隊 中でも特殊部隊に興味があるのだが、今回はSASの話をしてみよう。

SASとは、世界中にある特殊部隊の祖とも言える存在で、簡単に言えば、最新、最強の部隊である。

某誌では、特殊部隊ランク一位に輝いているのだが、中でも凄まじいのが、その精神力である。

湾岸戦争時、捕虜になった兵士は、ボロボロの体で、装備もほとんどないまま、砂漠地帯300キロを渡りきり、脱出に成功した。

彼らは、死ぬ寸前にあっても、エンジン全開の気持ちを緩める事はない。

SASになるのに必要なのは、並はずれた肉体の強さではなく、それ以上に克己心【自制心、自分を抑える心】が必要になる事が強調されている。

また、従来の軍隊のイメージとは違い、むやみな殺戮を否定し、怒りに流されず、冷静に行動できる事。

あらゆる人間と仲良くできる協調性までもが求められている。

そんな優秀なSASであるが、入隊は150人が参加し、15人受ければいいと言われるほど、狭い門である。

SASになつてから軍人になるのではなく、軍人が更に上を目指すものとして存在するのが、SASである事を、付け加えておく。

鍛え上げられた軍人が150人参加し、15人しか受からないのである。

それだけで、厳しさの想像はできよう。

しかも、その厳しさは入隊後も続くのであるが、ここで気になった記述を紹介しよう。

SASの訓練では、怒鳴ったりする事はほとんどない。

訓練兵の尊厳を傷つける行為は、現在のSASの訓練の基本方針に

は含まれていない。

（しかし、尋問訓練など、意図的に精神を追いつめる訓練は別である）

球技日本一、格闘技の世界一だけでなく、軍隊の世界一までもが、罵声や尊厳を傷つける行為をしていない事に驚きを隠せないわけだが、この記述はこう続く。

そついった行為が行われていた時と、今のSASを比べても、その実力にはなんら変わりはない。と。

子育て 怒り方7

では、そんな厳しい入隊訓練を突破し、SASになるのに一番必要なものは何かと言われれば、先ほどあげた克己心の他、最重要とされているのが、特殊部隊に入りたいと願う、強い決意だと述べられている。

ここでも、志の重要性が語られたわけだが、ここで一つ問いかけをしたい。

あなたが、勉強、スポーツ、他の何かを教育しようとした場合、志が育つような教育をしているだろうか。

心を育てる前に、詰め込み型の勉強をさせ、根性とう名で、罵声を浴びせ、スポーツを教えてないだろうか。

志しは、その人を世界一に押し上げる力がある。

志しは、打たれ強さも養ってくれる。

志しがあれば、自分から進んで学んでくれる。

しかし、今の教育は、心を重視していない。

その先にある素晴らしさを教えねば、志しは育たない。

楽しくなければ、興味もわかない。

やる気のない態度を見て、怒りを持って勉強しろ、罵声を浴びせ、もっと動けなどとは言っていないだろうか。

勉強を教えるなら、勉強を教える。

スポーツならば、スポーツを叩きこむ。

そうではない。

その前に教えるべき事が、その道に進む楽しさであり、その意義であり、志しを持てるような環境作りだと、私は考える。

そして、志しを教えるには、教える立場である、あなた自身の目的意識をはっきりとさせ、それを伝えてみようではないか。

人は超能力者ではない。

黙っていても伝わると思っている、案外伝わっていないものである。

そして、その目的意識が、自分のためを思っているものだと感じた時、楽しみを感じた時、魅力を感じた時、人は自ら進んで動くようになるのだ。

志しを育てるのに罵声は必要ない。

愛に満ちた、笑顔に満ちた環境でも、学びの素晴らしさ、その先にある意義が、子供の夢と合致すればいいだけである。

子供自身が意義をすでに見つけているなら、それをサポートすればいいだけである。

もう一度言っ。

志しは、その人を世界一に押し上げる力がある。

志しは、打たれ強さも養ってくれる。

志しがあれば、自分から進んで学んでくれる。

こんな素晴らしいものを掘り起こさないのは、もったいないではないか。

そして、もし掘り起こすのなら、罵声が飛ぶ環境ではなく、愛に満ちた家庭団らんの環境で掘り起こして欲しい。

掘り起こすものが同じであるなら、愛に満ちた環境で掘り起こしたほうが、あなた自身も気持ちがいいはずだから。

子育て 怒り方 8

今までの記事まとめ

今まで、怒り方という題名にして記事をいくつか紹介してきたが、怒らなければ改善しない問題と言うのはあるのだろうか。

逆に、褒めて改善する事はないのだろうか。

それを非常によく説明しているのが、世界中で売れているこの本である。

人を動かす 新装版/デール カーネギー

この本は、どんな本なのか。

題名が人の動かし方とあるので、人の動かし方なのは間違いないのだが、読み進めるとある点に気付く。

これは、人の褒め方の本でもあると。

特に印象に残ったものを紹介しよう。

友達に本を貸してるので、原文のままではなく、私の視点から書くが、そこはお許し願いたい。

世界的に有名なパイロットが操縦する飛行機が、突如、空中で制御不能状態になってしまう。

パイロットは、必死の思いで操縦し、無事に着陸する事に成功する。

すぐさま事故原因を調べると、いつもと違う燃料が入っているではないか。

整備士の顔は真っ青になり、絶望に満ちている。

それはそうだ。

自分の不注意で、数人の命が奪われるかもしれないのだから。

整備士は、パイロットに怒鳴られる事を覚悟しただろう。

もしかしたら、人生が終わる覚悟をしたかもしれない。

しかし、パイロットから出た言葉を見た時、私は思わず涙が出てしまった。

君は二度と同じようなミスはしない。私は確信している。その証拠に、私は、また君の整備した飛行機に乗る。

どんな人でも怒りそうな場面で、彼は信頼を示したのである。

私は整備士のその後は知らない。

しかし、私も整備士はもうミスはしないと確信してしまったのである。

恐らく、これを読んだ多くの人もそうではないだろうか。

子育て 怒り方9

誰しもが怒りそうな場面で、逆に相手を信頼してみせたパイロット。

私はこれを見た時に、なんと心が広い人だろうと思うと同時に、こう感じた。

なんと心の強い人だろうと。

常に優しくいる事は、並大抵の事ではない。

自分の心にゆとりがあり、相手を受け止める気持ちがあり、怒りに流されない自制心までも必要とする。

今までは、怒る教育の中で、素晴らしい事例を紹介してきたが、私としては、褒める教育のほうが難しいと思っている。

どちらも、結果だけ見れば、一流の選手を輩出しているので、甲乙はつけられるものではない。

しかし、怒る教育は、感情に任せ怒りを爆発し、叱咤激励するが、褒める教育は、教育する立場である、あなたの心の成長もかせないものなのだ。

怒りに任せず、自分を抑え、相手に対して怒りではなく、改善点を言う。

短所を責めるのではなく、長所を褒める。

自分自身の心が広くなければ、中々できる事ではない。

須藤元気選手はこう言っている。

優しさとは強さだと。

同じ考えの人がいて、とても嬉しく感じたが、須藤選手は、2008年に、拓殖大学レスリング部の監督に就任している。

2009年には、東日本学生リーグ戦で就任以来初となる優勝を決め、最優秀監督賞を受賞。

2010年には、日本学生レスリング王座決定戦で優勝を決め、4度目の最優秀監督賞を受賞。監督就任後2年で4冠を達成している。

私は、須藤選手の指導方法を知らない。

しかし、私はこう思うのである。

選手には、思いやりを持って接し、効率よく技術を教えていると。

選手を殴り、罵倒し、怒りに任せて指導する方法はしていないと。

子育て 怒り方10

前回、怒りではなく、信頼で人を動かす例をあげたが、今回はこの話しをしたい。

これはとある職人の世界の話であるが、その会社は、日本一の技術者を次々と生み出している、素晴らしい会社である。

その会社に入った新入社員の特集をしていたのだが、そこでのやり取りがとても印象に残っている。

数人が一つの部屋に住み、朝の五時に起床。

会社周りの掃除をし、ランニング。

それから仕事に向かうのであるが、印象に残ってるのが、社長のセリフである。

なんだ、こんなのもわからないのか。今まで何やってたんだこの野郎！

こんなのも出来ないのか！

入ったばかりの新入社員である。

出来ないのは当たり前であり、これは言いすぎではないかと、多くの人は思ったであろう。

その点を、インタビューでこう答えている。

どん底を見せてやらないといけないんですよ。どん底から這い上が

って来た者は強い。

若いうちに苦勞はしないといけない。

事実、その会社に残ってる人は、そのどん底から這い上がってきた者しか残ってない。

更に、会社の実績も申し分ない。

だが、入社した新入社員のほとんどが、わずか一カ月で辞めていたのだ。

これを根性無しと見る事も出来よう。

しかし、私の感想は全く違うものだった。

勿体無い。

これが正直な感想であつた。

子育て 怒り方11

私は、何をさして勿体無いと言ったか。

なんだ、こんなのもわからないのか。今まで何やってたんだこの野郎！

こんなのも出来ないのか！

これを

なんだ、こんなのもわからないのか。でも、俺のところまで学べば、お前もきつと日本一になれる。一緒に頑張っていこう！

今は出来なくても、将来は立派な職人にしてみせる！

こう言いかえるだけでも、だいぶ違うのではないだろうか。

新入社員は、慣れない環境の中、罵声を浴びなくても、既に、まいつているはずである。

そこで意図的にどん底を見せられては、心が折れても、なんら不思議はない。

どん底とは、文字通り、暗闇の中で何も見えなく、希望すら見えな

くなっている状態である。

この会社に入社を希望する人は、志しは既に持っているだろう。

しかし、これでは、徐々に志しや、やる気が消えても、私は何ら不思議に思わないし、仕方がないとすら思うのである。

なぜなら、志しを育てる接し方は、していないからだ。

今に見ていると言う、恨みに近い、志しは育つかもしれないが、日本一の職人を夢見てきた志しを折る力も、存分に備えている。

この社長が、日常的に、周りの会社から、どん底におとし入れられたら、どう思うだろうか。

仕事やしにくくて、仕方がないのではないだろうか。

谷底に落とし、昇ってきた獅子のみを育てるのならば、その方法で良い。

並はずれた精神力、打たれ強さを持ち、日本一の技術を兼ね備えた者のみが必要なら、それでかまわない。

軍隊の尋問訓練のように、意図的に精神を追い込む訓練を乗り越えたもののみが、必要なかもしれない。

しかし、せっかく志しを持った人が集まっているのだから、彼らを意図的にどん底に落とさず、更なる志しが育つように接してほしい

と思ったのだ。

日本一を夢見た人が沢山集まっているのに、その多くが辞めていくのは、なんと勿体無い事だろう。

SASの訓練の記述に書いたが、尊厳を傷つける行為をしていた昔と、それをしなくなった今でも、兵士の質はなんら変わらないと言う。

その理論を信じるなら、意図的にどん底を見せる接し方を変えただけで、一カ月で多くの人が辞めるどころか、多くの日本一が生まれる可能性を秘めているのではないだろうか。

ここで、先日紹介したDカーネギーの本から、一文を紹介させて頂く。

怒られながらしつけをされた犬と、褒められながらしつけをされた犬では、褒められながらしつけをされた犬のほうが、覚えが良かった。

そして、それはそのまま人間にも当てはまるのである。と。

子育て 怒り方12

前回、Dカーネギーの本から、怒られてしつけられた犬と、褒められた犬では、褒められた犬のほうが覚えがよく、人間にもそれは当てはまるとの文章を引用したが、それは本当なのだろうか。

これを、わかりやすく説明できることわざが、日本にはある。

それが

豚もおだてりや木に登る。

である。

木に登るような指もなければ、爪もなく、その体型も木に登るには適していない。

しかし、そのような豚ですら、褒められ、おだてられ、やる気になると、木に登ってしまうと言つのである。

これは、能力の低い者でも、おだてられて気をよくすると、能力以上のことをやり遂げてしまうことがあるという例えとして、日本で使われていることわざだが、豚ではなく、人間にこれを用いた場合はどうであろうか。

それこそ、能力以上のものを発揮するのではないだろうか。

以前、似たような状況の記事を書いたが

<http://ameblo.jp/ganbare dameom>

ajide/entry-10969493004.html

格闘技の練習でぶんなぐられ、間接を極められ、ハードな筋トレや有酸素運動をこなす格闘技の練習でも、褒めながら教育する場合と、罵声を浴びせながら教育する、両極端の教育方法が存在している。

褒められて育った格闘家は打たれ弱いだろうか。

そんな事はない。

超人的な運動量をこなし、殴られ極められて、そんな環境を耐え、チャンピオンになっているのである。

私の持論ではあるが、運動などの環境で養われる打たれ強さと、罵声で養われる打たれ強さは、全く異質なものだと思っている。

日頃罵声を浴びた人は、人間として強くなるだろうか。

否。

そこに目的、目標、愛がなければ、その人は心を閉ざし、ひねくれてしまうのではないだろうか。

聞き流す事もできない素直な人ほど、逆に打たれ弱くなり、精神的に弱ってしまうのではないだろうか。

このような例は、あなたの周りでもいくらかもあるだろう。

褒められ教育された人間で、病んだ人はいるだろうか。

あなたの周りで病んでる人はどのような扱いを受けているだろうか。

過去の記事でも似たような事を書いているが、今日このような記事を書いたのは、私が以前一緒に仕事をしていた知人が、最近精神的に病み、薬の世話になっていると聞いたからである。

性格も素直で、超高学歴の学校を卒業し、私の目から見ても将来有望な人物だと感じていたのだが、些細な事で怒鳴られる事が多く、それが積み重なり、伸び伸びと仕事ができなくなっていた。

それが今では薬の世話になっている。

私がいた頃にも、怒鳴り方に愛がないな。危ない怒り方だなと感じていたのだが、予想以上の速さで、彼の心を蝕んだようだ。

優秀な人物が潰れるのは本当に勿体無い。

潰れた人間が優秀ではないなどとは思わない。

打たれ弱いとも思わない。

怒鳴る教育は、怒鳴る側である貴方が一流の怒鳴り上手であり、相手自身の志しも一流でなければ、ほとんどの場合、相手が潰れるであらう。

しかし、褒める教育なら、褒める貴方自身が一流の褒め上手なら、相手は叱咤激励がなくなるとも、自ら能力以上のものを発揮するようになっていくだろう。

豚もおだてりや木に登る。

部下を教育するにも、子育てを教育するにも、ぜひ取り入れたい、素晴らしいことわざではないだろうか。

子育て 怒り方13

顧問が不在で、誰も怒鳴らない環境で練習し、全国優勝したチーム。

格闘技のような殺伐とした環境で、選手を褒めて伸ばすトレーナー。

非人道的な指導をやめた、特殊部隊SAS。

誰でも怒鳴りそうな場面で、信頼で人を動かしたパイロット。

私は、ほとんどの場合、褒める、信頼を示す、楽しさを見つける等々、怒鳴らずとも、あらゆる他の方法で、問題は改善するものだと思うているが、怒りたくなる場面では、責任は相手にのみあるのだろうか。

印象に残っている出来事があるので、ここで一例として載せておく。

これは、とある父子家庭の話である。

ある日、子供が万引きを働き、それが見つかり補導されてしまう。

その子供は、日頃から問題行動をしていたようで、問題がある人があずけられる場所（詳細不明）に、一時的に預けられていたのだが、父はまたかといった感じで、子供に説教をした。

その時である。

そのやり取りを見た、預り所の男性が、父を怒ったのである。

子供は、あなたにかまって欲しくて、盗みをしたのではないか。

あなたが、子供がぐれたくなるような接し方をしたのではないか。

子供が道を外したのは、自分に責任があるとは思わないのか。

子供を責める前に、自分を責め、そんな事をさせてごめんねとは言えないのか。

あなたより、子供のほうが傷ついてる。

改めるのは子供ではなく、あなたの日頃の接し方だ。

思うところがあったのだろうか。

父は号泣し、子供にごめんなと謝っていた。

怒りたくなる場面とは、日頃の自分の接し方を見直す場面でもある。

怒りたくなる原因を作っている本当の根源は、実は自分の日頃の接し方だったり、他の環境に問題があるかもしれない。

それをくみ取る事が出来た時、怒る機会は自然と減っていくのではないだろうか。

子育て 怒り方14

今までは、目標を持つような怒鳴り方、その他の方法での、人の動かし方を説明したが、それらのほとんどが、何かの作業をしている人、何かに向かってしている人への、励まし方、怒鳴り方であった。

それとは全く無関係の、日常生活ではどうであろうか。

例えば、子供が日常生活で、皿を割ったとかなら。

私なら、これから取扱いに注意しようね。

と

怪我がないかを心配するくらいで終わる。

しかし、これが、盗みや、ありえない怪我をさせた等、非人道的だったり、人に迷惑をかける行為を故意にした場合はどうだろうか。

前回の記事と矛盾するが、私なら怒る。

<http://ameblo.jp/ganbare dameomajide/entry-10986081920.html>

全力で怒る。

それと同時に、日頃の自分の接し方を見直し、思うところがあれば

謝り、子供と話し合い、改善策を見つけるだろう。

しかし、これが他人ならどうだろうか。

子供限定ではなく、年齢制限も無くしたとしたら。

私は、注意出来ない。

恐らくほとんどの人が、注意出来ないはずだ。

子供だった場合、本来注意するはずの親自身が、注意するべき出来事だと思っていない事が多い。

少年、青年となっても、その態度を貫いているのなら、とりまく環境のほとんどが、それを肯定する環境にあったと考える。

昔は、注意する大人がいて、聞く側も、うるさいなと思いつつも、この人は、人に迷惑をかける行為を辞める事はいけないと言ってるし、確かにそれは良くないなど、怒られる側も納得していた。

人に迷惑をかける行為はいけない。

これは、未来永劫変わる事ない真理のはずである。

しかし、現代は違う。

迷惑をかける行為をかつこよく書く漫画や、様々な媒体が多数存在

し、その行為をかつこいいと思ってる子供、大人が多数存在している。

怒られる側は、改善策を言われているとは思わず、自分の楽しみを邪魔する厄介者が、何かを言ってるとしか思っていない。

不快感しか感じていない。

その結果、注意した側が暴行されたり、殺されたりする、信じられない事件も発生している。

現代では、他人を注意するのは、命がけになっている。

この問題は、彼らのとりまく環境、媒体の文化が変わらなければ、改善は難しいと感じるが、ここで新たな問いかけをしたい。

怒る側の話しをしてきたが、怒られる側にも絶対に必要な資質があるのではないだろうか。

現代人は、それが圧倒的に不足しているのではないだろうか。

私は、圧倒的に不足しているそれを、素直さであると考ええる。

素直さ

素直さとはなんだろうか。

意味は、性質・態度などが穏やかで、ひねくれていない事とある。

何かを助言された時に、穏やかにそれを受け入れる事は、簡単なようで難しい。

助言される事自体が、自分の今の行為を否定している事だからだ。

しかし、素直な人は、自分の事を思っ言ってくれると納得し、それを受け入れる。

私が今回の震災で感じたのは、災害の大きさもさる事ながら、それ以上に恐怖を感じたのが人災、心の問題であった。

その中でも、今回は素直さについて語らせて頂く。

素直さは、子供の問題の専売特許のように思われがちだが、誰でも生涯を通じ、必要なものだとは私と考えている。

現在、私は被災地に住んでいるのだが、素直さの欠如を感じる出来事が多々あった。

まずは、大地震が起きた時。

私は、津波が来る可能性があるから逃げろ！と叫んだが、沿岸から数キロも離れているこの場所に来るはずがないだろ！と、逆に声をあげられた。

津波到達後は、多くの人が、沿岸の様子を見に行きたがつたり、ガソリンスタンドの復旧の見通しもない中、車を運転しようとした。

そこには、危険性も大いにあり、ガソリンの無駄な消費は、何かある時に自分が動けなくなる可能性も秘めている。

私は、まだ危険もあるし、ガソリンも大事に使うと意見する。

しかし、こういった意見が素直に受け入れられる事はあまりなく、被災後のガレキ撤去でも、ガラスや釘が危険なので、手袋を使ったり、鉄板を入れる意見にしても、めんどくさいと言われていた。

最終的には、みんな納得はしてくれるものの、ほとんどがこづいた感じである。

この出来事は、土地柄也大いに関係していると思う。

漁師町で気の荒い人が多いし、年配の人だった場合は、年下に意見を言われれば、面白いわけがない。

しかし、この問題がこの土地ならではのものと云われれば、そうではない。

これは、どこにでもある問題だと私は感じた。

この人達が素直に受け入れない理由を単純に説明するなら

自分がやりたいようにやりたい。

それが出来ないなら不快である。

ようは、自分がやりたいようにやれないのが、面白くないである。

これは、前回書いた、注意されてキレる問題と、根本的には同じではないだろうか。

素直さ2

素直さが欠如すると、どうなるだろうか。

相手が、何か言われるたびに激しく反論、もしくは暴言を吐くようなら、話しかける側は、この人は素直に話しすら聞いてくれないし、時には怒鳴ると感じ、話す事がおっくうになり、場合によっては、顔をうかがって話すようになってくる。

しまいには、この人には言っても疲れるだけだ。無駄なのではないかと、意見する事すらなくなる。

自分に否があるのに、素直に謝れない人は、更なるトラブルを引き寄せる可能性もある。

素直さがなく、懐疑的になってしまえば、あらゆる事を疑いはじめ、まわりが敵に見える事もあるだろう。

素直さの欠如は、人との関わりを知らずに減らし、自己成長の機会を減らしてしまう。

逆に、素直さがあつた場合はどうだろうか。

素直に相手の意見を聞き、返事が出来る。

自分の中に、相手の意見を取り入れる事が出来る。

何でも取り込めばいいと言われるれば、もちろんそうではない。

善悪の判断、情報の有効性、判断材料は様々だろう。

明らかに不利になる意見も、あるかもしれない。

なので、ここで言う素直さは、これを基準に考えてほしい。

自分の事を思ってくれている意見、自分にとってプラスになるであろう意見を、素直に取り入れる能力。

相手からの、愛、思いやりなど、何らかの正の感情が感じられる意見を取り入れる能力。

今の時代は、自分の事を思っ
て意見してくれていると感
じてても、それを素直に受
け取れない人が多いのでは
ないだろうか。

ホストの世界では、話し上
手より、聞き上手のほうが
重宝されると聞くが、自
分の話を素直に聞いてもら
えるというのは、恐らくあ
なたが思っている以上に、
相手の心に満足感や幸せを
もたらす。

素直さを持っていれば、あ
なたを成長させようとして
いる人も、安心して話し
かける事が出来る。

素直さは、あなたのあらゆる
成長を促し、人生を輝かせ
るカンフル剤として働く力
も持っている。

素直さを持っている人は素晴らしい。

しかし、この素晴らしい感情であるはずのさが素直さが、子育ての場合は、悪影響に転ずる事もあるのだ。

それはなぜか。

素直さ3

前回、子育てでは、素直さが悪影響を及ぼす可能性があると言ったのだが、なぜだろうか。

ここで言う素直さは、前回と違い、何でも無差別に吸収する、子供特有の素直さを前提に、話をさせて頂く。

子育てをした事がある人なら、誰でもこう言った悩みを持った事があるのではないだろうか。

どうすれば、礼儀正しい子供になるだろうか。

どうすれば、他人に迷惑をかけない子供になるだろうか。

どうすれば、子供に夢や目標を与える事が出来るだろうか。

他にも色々な【どうすれば】が発生したはずだ。

しかし、この答えはかなり身近にある。

近すぎて、気付いていない人も多い。

それは、親自身が見本になる事である。

日本には、背中で語るとい言葉があるが、子供は日々、親の事を観察している。

親が教える気がなくても、子供はその素直さで、あらゆるものを吸収していく。

あなたが普段から礼儀正しかったら、子供はそれを自然と学んでいく。

しかし、その環境がすさんでいても、悪意に満ちていても、子供はそれを無差別に吸収していくのである。

前回言った、素直さの悪影響がここにある。

今の世の中は、明らかに子供に悪影響を及ぼす媒体が、そこかしこに氾濫している。

その中で、親自身も乱れた生活をしていたらどうだろうか。

子供はあつという間に、闇の道に入っていくのである。

子育ては、子供を育てる事だと思っている親が多い。

しかし、子育てとは、親である自分自身も、成長していかなければならない。

こうしろ、ああしろとうるさく言う前に、自分自身も見直し、お父さん、お母さんのようになりたいと思える暮らしが出来ているかどうか、見直してほしい。

別の記事にも書いたが、精神性を表わす素晴らしい言葉が日本には

ある。

仁・・・思いやり、慈しみ。

義・・・人道に従うこと、道理にかなうこと。

礼・・・社会生活上の定まった形式、人の踏み行なうべき道に従うこと。

智・・・物事を知り、弁えていること。

忠・・・心の中に偽りがなく、主君に専心尽くそうとする真心。

信・・・言葉で嘘を言わないこと、相手の言葉をまことと受けて疑わないこと。

考・・・おもいはかること、工夫をめぐらすこと。親孝行すること。

悌・・・兄弟仲がいいこと。

子供や親だけでなく、全ての人に必要な、素晴らしい心構えではないだろうか。

素直さ4

私は31歳だが、この年齢にもなると、ほとんどの人が、両親のあ
る事を心配するようになるのではないだろうか。

痴呆、ボケである。

私も両親のボケが心配なのだが、予防法も沢山あるようで、色々勧
めるが、まずやろうとしない。

それは周りの友達の家でも同じようで、はじめの一步を歩ませるのに、とても苦勞するようだ。

この年齢特有の現象かどうか分からないが、自分が興味がないものは、とことん拒否。

試そうともしない。

ようするに、頭が固く、素直ではない。

今と昔でボケ防止のために勧めるものが大きく変わったと感ずるのだが、私を含め、多くの家庭で、ボケ防止のために勧める物に、ゲームがあるのではないだろうか。

昔は、子供の遊びで、特に男子のみの遊びのイメージが濃かったが、時代を経て、今では、男女問わず楽しめるものになり、ゲーム世代も成長し、40代でもやってる人は普通にいるようになった。

しかし、ここから年代を上げるごとに、プレイ人口は激減していき、私の両親の年代にもなれば、未知の機械で、動かすのも不可能なものと考え、嫌悪感を表わす人も出てくる。

勧めても、頭から不可能なものとして考えてるし、必要ないと思ってるので、全力で拒否、新しいものには嫌悪感が、無関心で対応。

では、これはゲームだけの問題かと言うと、そうではない。

会社でも、どこでも起きている問題である。

もちろん全ての人がそうとは言わないが、頑固で人の話しも聞かず、我がままで、自分を成長させる事を忘れてしまった高齢者は沢山いる。

新しいものを柔軟に取り入れる事を忘れ、過去の前例、実績に固執してしまった、上司、政治家など、上の者の柔軟性が無くなるほど、下の者は苦労してしまう。

中には、歳をとればそうなるものだと言う人もいるが、それは心だけの問題で、年齢の要素はあれど、それが全ての原因とはいえないのではないだろうか。

逆に、人格を磨き続けて歳をとった人は、仏様のような雰囲気さえ感じる事さえある。

歳をとってきたからこそ、一歩引いて考え、頑固よりも柔軟性をもってみるとどうなるだろう。

素直に、周りの意見も聞いてたら、どうなるだろう。

生涯人格を磨き続け、新しい物を取り入れる気持ちを持つ事が、ボケ防止にも繋がり、人脈の幅を広げる力になり、孤独死も逃げていくのではないだろうか。

私は、体は老ても、心はいつまでも、青春時代の輝きを持つ事が可能だと思っている。

一つ提案があるのだが、聞いてもらえるだろうか。

孫のプレゼントにゲームを考えたとしたら、同じ物を自分にも買ってみよう。

ゲームは、あなた達が苦勞して覚えた運転より、はるかに簡単なものだ。

孫が可愛いけれど、何を話していいかわからないって人がいるかもしれない。

でも、共通のゲームをしていれば、自分から話題をふれるし、孫からも沢山聞いてくるようになる。

会話とゲームで、ボケ防止効果は満点。

そしてもう一つおまけがくる。

ゲームが出来るお年寄りには、かっこいいと孫に自慢されるようになるのだ。

孫と楽しみ、自慢され、ボケ防止にもなるゲーム。

一度試してみてもどうだろうか。

←の動画は、70歳のおじいちゃんが、ボケ防止のために始めたゲ

ームの動画。

かつこいいの声が飛び交う動画、必見である。

http://www.nicovideo.jp/watch/
sm268903

先人達に、命令口調で話してしまい、大変申し訳ありません。

ここだけ、文体が変わるのも変なため、この口調で通しましたが、
ご了承ください。

微力ながら、先人達の幸せの手助けになればと思います。

素直さ5

子供時代、大人になった社会人時代。

もし、注意されて怒りを覚えそうになったら、いったん考え直して欲しい。

その注意は、あなたを成長させるアドバイスかもしれない。

相手がただ怒りをぶつけているだけと感じたら、あなたはその逆をいき、的確なアドバイスをできる人間を目指して欲しい。

まずは、素直に聞く事を覚えてほしい。

頭ごなしに否定したり、怒りを覚えてしまったら、せっかくの成長の機会も逃げていってしまう。

議論は、素直に聞いた後でも出来る。

お互い怒りを覚えてしまつては、議論が口論になり、争いになりかねない。

素直さは、あなたの成長の機会を増やし、争いの機会も減らし、人生を豊かにする可能性を秘めている。

頭がかたくなつてきたかな？と感じた中、高年時代。

あなたに話しかける人の話題を、頭ごなしに否定していかないだろうか。

興味がないと、無関心を貫いていないだろうか。

昔を常に、懐かしんでいないだろうか。

まずは、素直に聞いてみよう。

今の時代も楽しんでみようと考えてみよう。

柔軟性を意識してみよう。

素直さ、柔軟性がなくなると、周りの人は、あなたに話しかけるのを、躊躇するようになってくる。

顔色をうかがい、話す人もでてくる。

今を見ないで、昔ばかり見ていれば、若い人との会話も合わなくなってくる。

素直さ、柔軟性があれば、あなたはいつまでも、気持ちは青春時代を味わえる。

今を楽しむ事がわかってくる。

その気持ち、健康増進、ボケ防止にもつながっていくはずだ。

多くの高齢者が、それをできていないからこそ、それを出来たあなたには、更なる人望、人脈が集まるはずだ。

孫と一緒に遊べる、若い子とも話せる。

いつでも青春時代でいるためには、素直さ、柔軟性はとても大事な宝物になっていくのではないだろうか。

そして、その宝物は、見つける事が困難なものではなく、既に誰でも【心】に持っているものなのである。

マナーやルールを守るという事

最近、海外のサイトで、日本人のマナーを守る姿勢、モラルの良さに驚嘆している書き込みを見かけるのだが、書きこまれている内容で、こんな記事があった。

震災時、信号が機能していない道路で、きちんと譲り合って運転している。

まるで無音動画を見ているように、クラクションは鳴らず、罵声をとばす者もない。

我が国では不可能だ。

とあるネットゲーム内で、日本人のプレイヤーが列を作って待っていたのだが、わが国では誰も並ばない。

取り合いになるし、横入りは当たり前だ。

日本人はゲームの中でさえ、モラルを守ろうとしてる。

どうなってるんだ。信じられない。

ネットゲームに関して言えば、他国が驚愕するくらいなので、並べというルールすらない中、並んでいたのかもしれないし、自ら列を作るというマナーやルールを作ったのかもしれない。

しかし、震災中の運転に関しては、声がけもなく、ごく自然にこのような行為が行われていた。

今回例題にあげたものに関しては、クラクションを鳴らして罰則があるわけでもないし、何か違反しても、警察が機能してなかったの

で、捕まる可能性も薄い。

ゲームに関して言えば、罰則もルールも存在しないかもしれない。

なのに、なぜ日本人はマナーやモラルを大事にするのか。

日本人である私からすれば、【なぜ】が発生する事が不思議だったのだが、これも何かの縁と感じ、ここに自論を書かせて頂く。

マナーやモラル守る事は、結果として、自分を守る事に繋がっている。

この守るとは、命だったり、財産だったり、色々なものがあるが、中でも、心の平和を守れる事が大きいと感じる。

もし、あなたが並んでいる時に、常に横入りをされたらどうだろうか。

怒りで気持ちが一杯になるのではないだろうか。

商品も中々手に入らず、苛立ちの気持ちになるのではないだろうか。

逆に、商品を早く手に入れても、相手の怒りを買い、争いに巻き込まれる可能性もあるかもしれない。

もし、車が自分勝手に動いていたら。

命の危険を感じたり、危険行為に怒りを感じたり、心の平和は保てないのではないだろうか。

ぶつかれば、ケガやトラブルに巻き込まれる可能性も多く、運転中も、気持ちが安らぐ事がないはずだ。

それが、ルールやマナーを守るだけでガラリと変わる。

きちんとみんなが並んでいれば、あと何分で手に入るという、安心感が手に入り、後は並ぶのみである。

信号がなくても、みんなが相手を気遣っていれば、安心して運転でき、事故も防がれ、命の危険も減る。

置かれてる環境は同じはずなのに、まわりの心遣いが変わるだけで、まるで別世界になってしまう。

このマナーやモラルを守る事の大事さは、今回の震災で、特に強く実感した感情であった。

マナーやルールを守ると言う事 2

私は、被災地のど真ん中に住んでいるのだが、被災直後、略奪や暴動に巻き込まれる事がなかった。

窃盗は多発していたようだが、暴力にものを言わせて奪う人を見ていないし、傷害事件に巻き込まれたというのも、見ていない。

配給品を貰う時は、みんな列を作って待っていたし、無理やりその列の先に行こうとする者もいなかった。（残念ながら、こっそりと横入りする人は、何人が目撃したが）

幸いにも、命の危険を感じたのは、地震、津波の影響、そして飢えだけだった。

言いかえれば、自然災害で命の危機を感じたものの、人災では感じる事はなかった。

（地震直後の話しであって、その後の政府を見てみると、命の危機、国が崩壊する危機さえ感じるが）

モラルという言葉の意味を調べてみたら、思った以上に、多くの言葉がでてきた。

「道徳」

「倫理」

「良識」

「―に欠けるの意味」

「善悪の判断の基準」

道徳も倫理も良識も、他の言葉も、字数は多くないが、その中身をつきつめれば、本が一冊できるのではと思うほど、濃いものになるのではないだろうか。

でも、私は単純にこう思うのだ。

モラルとは、自分がされたら嫌な事をしない事。他人が嫌がる事をしない人。

モラルを守れる人とは、そういった人ではないかと思う。

それが守られれば、おのずと暴動も略奪もなくなり、結果として、自分を守る事、他の人を守る事に繋がるのではないだろうか。

こんな話があるので、一例として載せておきたい。

飛行機から脱出した人には、賞金をあげます。

では、スタート！

人々はその声を聞くやいなや、一斉に出口に殺到する。

入口には人があふれ、人をどかさうとする人、割り込もうとする人だらけになってしまう。

その結果、そこから脱出する時間は劇的に遅くなる。

これは、形を変えているものの、事故でパニックを起こした人と同じ行動だそうで、事故時の人の動きとして紹介されていた。

自分だけは早く脱出しよう、助かろうと行動する事により、かえって脱出は困難になり、場は混乱する。

しかし、我先にと動かず、冷静に動けば脱出は数分ですむのだ。

飛行機の中でさえ、こんなに世界が変わるのだ。

私は、我々の住むこの地球の人々が、モラル、他人を思いやる心を身に付けた時、世界は激変すると確信している。

マナーやルールを守ると言う事 3

マナーやルール、モラル。

定義は数あれど、根本にあるのは、自分がされて嫌な事はしない。

相手がされて嫌な事はしないと事と、前回、自論を話した。

海外では、電車内でも、うるさくしている人がとても多いそうだが、日本にはそういった人が少なく、とてもびっくりしたそう。

周りが静かで、その時、初めて自分が迷惑をかけていた事を知った外国人の話しがついていたのだが、ここである事に気付く。

されて嫌な事の定義は変わる事はないだろうが、それが当たり前の環境にいと、感覚がマヒしてしまうのだ。

周りで盗みが横行していたらどうだろうか。

日常的に殺人が起きていたらどうだろうか。

それが当たり前の環境で過ごしてしまえば、嫌だけど仕方ないと思えるかもしれない。

もしくは、それが当たり前だから、何も感じない、になってしまっている人もいだろう。

しかし、その発想は、必ずしも環境が影響しているのだろうか。

貧困が、国境問題が、差別が、その他の問題が、そういった問題を
生み出すのだから。

否。

それらは、要因の一つにしか過ぎない。

貧しい人は、必ず人間におかしくなるだろうか。

戦争を経験した人は、必ず人を殺し、思いやりを持たない人間にな
るだろうか。

そんな事はない。

それに負けず、人間的に素晴らしく育っている人間は絶対にいる。

彼らは、そのような環境にあっても、こんな世界にはいけないと自らを奮い立たせ、自分を律し、正義の道に生きる強さを持っている。

優しさとは、強さだ。

悪の道に入るには、目の前の、暗い穴に入ってしまったえばよい。

希望もない、破壊に満ちたその世界には、モラルなど存在しない。

しかし、暗闇の中で、光を見つけ、そこから救出されるには、そこにいてはならないとう、自分の意志と、周りの助けが必要になる。

穴が深ければ深いほど、助けるのは難しく、自分一人ではどうしようも出来ない問題になってしまう。

そうならないためにも、まずは、悪の道に入らない【強さ】を持ち、そういった環境でもグレないよう、愛を、思いやりを伝える必要がある。

勉強とは違う、心の教育の問題である。

大変な環境にいれば、悪の道にいくのが当たり前。

モラルがないのが当たり前と思ってしまえば、そこから道德の進化

は止まってしまふ。

しかし、そんな環境に負けず、真つすぐ生きるのが正しい。

環境に負けず、モラルを守れる人間でいるのが当たり前と思える世界になったらどうだろうか。

当たり前前の概念は恐ろくもあるが、素晴らしくもある。

モラルを守らないのが当たり前ではなく、モラルを守り、愛に満ちた世界が当たり前と思えた時、人々が愛を持ち、助け合う概念を持った時、この世界は激変する。

そして、私は教育で、その概念を植え付けるのは可能だと思っている。

普通ならグレてもおかしくない環境にありながら、真っすぐに生きた実例は、沢山あるのだから。

犯罪 死刑制度から見る教育。

死刑制度。

日本は死刑肯定国だが、世界を見れば、否定国も沢山ある。

日本に限って言えば、冤罪の人を抜かせば、数人を殺すなど、凶悪事件と呼ぶにふさわしいものを起こした人に限り、死刑は実行されているものだと思うているが、そんな中でも、常に死刑反対の声は上がり続けているし、海外からの圧力も相当なものになっていると聞く。

海外に目を向ければ、数人を殺していても死刑にならないどころか、数年で出所できる国も沢山あると聞く。

死刑を反対する理由は、宗教の問題だったり、様々な要因がからんでいるのだろうが、もし、凶悪犯罪を起こした人が出所したらどうなるだろうか。

そういった人が、あなたの近所に引越してきた場合は、多くの人が、不安にかられるはずだ。

それは、死刑を反対している人も、等しくそうなるはずである。

死刑を反対している人の家のまわりに、優先的に、¹元²犯罪者を住ませます。

彼は更生プログラムを終了し、真人間になったはずなので、同じ地域の一員として向かい入れて下さい。

中には笑顔で向かえる人もいるだろうが、強盗、殺人、その他の重大な犯罪を犯した人に囲まれて住むとしたら、死刑反対論者と言えど、ちよつと勇気が必要になるのではないだろうか。

極端な例えをあげたが、犯罪をあつせんする悪の教えと、人に迷惑をかけない、優しさを大事にしようという正の教えは、どちらが伝わりやすいだろうか。

私は、圧倒的に悪の教えのほうが理解しやすく、広がりやすい思っている。

悪の限りをつくすのに理屈はいらないし、難しい理論も必要としない。

壊すのは気持ちいい。迷惑をかけて当たり前だ。

それだけ理解できれば、立派な悪の誕生である。

劣悪な環境があれば、教えさえなくても、勝手に悪が育つだろう。

しかし、正の教えと言うのは、非常にわかりにくい。

教える人、環境に愛がなければいけないし、ルールやモラルをなぜ守らなければいけないのかなど、正しい人間の道を書き示すだけでも、あつという間に一冊の本ができる勢いではないだろうか。

そして、その本が正しいのかを理解し、実行するのも、また難解なものになっているのだ。

正しい道に関しては、まるで哲学、学問のようである。

多くの家庭で、自分の子供を悪から守るためにする手段の一つに、そういった連中と関わらせない事があるのではないだろうか。

そういった人とは友達にならない。

近寄らせない。

しかし、そういった壁は、彼らにとっては突破しにくいものでもない。

友達のふりをする。

脅す。

いくらでも手段はある。

もし、犯罪者が更生されないのなら、そういった手段を用い、仲間を増やしていくだろう。

それは、正の道の何倍も速い速度で広がるはずだ。

その結果、治安は悪化していく。

だからこそ、死刑を実行し、全てを殺せば犯罪は減るはず！などと馬鹿げた事を言うためにこの記事を書いたのではない。

多くの人が死ぬのは、どんな事情があれ悲しいものである。

ここで言いたいのは、あなたの国の留置所、更生プログラムについてである

犯罪 死刑制度から見る教育 2

犯罪者が捕まったら、何らかの更生施設だったり、刑務所に入れられ、刑期を過ごす事になるのは、万国共通だろうか。

さすがに全ての国の事情はわからないが、大体はそのような流れになっていると思う。

しかし、その刑期の過ごし方に、問題があると思えて仕方ない。

なぜ、再犯率は減らないのか。

なぜ、多くの犯罪者は、再度犯罪に走ってしまうのか。

現代は、心の教育が行き届いていない時代だと、たびたび話題に出しているが、その問題がここにも影を落としている。

これは日本の刑務所でのインタビューなのだが、刑務所に入ったって、その人がいじめられるか、よっぽど嫌な思いをしない限り変わらないと思いますよ。

ほとんどの人は変わらないんじゃないっすかね。

と、元犯罪者は言っていたのだが、日本はそれでも、管理が行き届いているほうではないだろうか。

他の国の場合、ただ閉じ込めるだけの施設となっている場所も多くあり、更生プログラムや、心の教育などは行われていないところもあると聞く。

それどころか、普通の家より、過ごしやすい場所になっているところさえあると聞く。

ここで、子供でも気付く簡単な疑問が生まれる。

閉じ込めるだけで、人は善人になれるの？

そんなはずはない。

閉じ込めるだけで、善人になれるわけがない。

それで変わるなら、これほど簡単な教育はない。

変わらないからこそ、再犯率は下がる事なく、犯罪はくり返されていく。

死刑反対論者は、どんな凶悪な犯罪者も殺すべきではないと言う。

それに異論をはさむつもりはない。

しかしどうだろう。

野に放たれた多くの、元、犯罪者は、再び犯罪に手を染めるのだ。

そして、仲間を、犠牲者を増やしていく。

死刑反対！

その声をあげるのも良いが、死刑になるような犯罪者を生まない教育を。

犯罪者が再び生まれない教育を、叫ぶ必要があるのではないだろうか。

閉じ込めるだけでは、人は変わらない。

そして、犯罪者を変えるには、刑務所だけでなく、社会全体も変わる必要がある。

犯罪者を確実に正の道に導ける仕組みが完成した時、世の中には再犯者どころか、犯罪者そのものがなくなる。

一人を確実に善人にする方法。

そんな方法は、現代には存在しないと、多くの人が言うだろう。

もし、あると言う人がいれば、その仕組みを是非とも世に広めて頂きたい。

現代の人類は大きな矛盾を抱えている。

道徳や精神性がほとんど発達せず、科学のみが発達した結果、人類を絶滅させるほどの大量破壊兵器を作り出したが、逆に、大量救い

道徳は作れなかった。

それどころか、一人を確実に善人に変える方法すら、確立していないのである。

前回、正の道は、本が一冊できる勢いで、理解するのは非常に難しいと言った。

しかし、本当はわかりやすいのだ。

単純なのだ。

されて嫌な事はしない。

人々が愛と思いやりに包まれた世界を目指す。

これだけで良い。

しかし、拝金主義、物質主義に走った現代では、この思想の実行は難しい。

だからこそ、声をあげてほしいのだ。

もっと、愛に満ちた世界を作るために、精神性を重視し、心の教育もするべきではないかと。

犯罪 死刑制度から見る教育 3

核兵器や、あらゆる兵器に対抗出来るもの。

それが、一人を確実に善人にする方法だと、私は思っている。

一人が確実に善人になるのなら、それを人類全てが実行すれば良いからだ。

そうすれば、兵器はこの世からいなくなる。

大量破壊兵器はなくなり、護衛のための武器も、様変わりするであらう。

しかし、今の世の中では、何度も言うように、反社会的な教えが広がりやすくなっている。

私は、漫画が大好きで、月に一度は必ず漫画喫茶に行くようにしている。

最近では、アニメもたまに見るのだが、アニメにしても、漫画にしても、他国がまねできない、素晴らしい作品が世に出回っていると感じる。

こういった媒体が及ぼす影響は凄まじく、ボクシング漫画を読んで感動し、ボクシングを始めた者。

バスケット漫画を読んで、バスケットを始めた人も、多くいるだろう。

ドラゴンボールを読んで、カメハメ波は無理でも、強い男に憧れ、自分を鍛えた人もいるはずだ。

宗教でもそうだが、多くは口コミと書物を元に広がっていく。

それが現代では、TVなども通し影響していくわけだ。

そういったものを見て、心が動き、目指す者がいるのは異論はないと感じるが、現代の日本では、反社会的なもの、例えば、ヤンキーや不良漫画も、少年誌で掲載されている。

そして、それに影響され、そういった男を目指す人も、間違いなく出てきているのだ。

私の近所に、全く同じ環境にしながら、兄が普通、弟が反社会的になっていた家庭がある。

弟は暴走行為、薬、暴力を日常的にしていたようだし、鉄パイプで人を殴るのも抵抗がないと言っていたが、家には、それ系統の漫画が大量にあった。

俺は、こういった男に憧れてる。

そう弟が言い、日常的にそういった行為をし、それを良く思わない兄が、絶対こうはなるまいと、逆に真面目になったそうだが、その人の友達も同じような事を言っていた。

大勢でぼこるのもしれーよな。

ストレス発散には、走りに行くのがいいよな。

実は、私もそういった本を読むし、内容も非常に面白いと感じる。

登場人物がかっこよく見えるし、ファンタジー系バトル漫画とは違った熱さ、面白さを感じるのだ。

文句なしに面白い。

しかし、漫画には出ていない描写を考えてみれば、深夜まで仕事を頑張った親や、やっと寝静まった乳児が、安眠しようとしている時、騒音で起こされる事もあるだろう。

心と体を休める時間であるはずの睡眠が妨害され、疲れをとる事ができない。

労働で疲れ切った体は癒されず、そのまま職場にいき、更に疲労をためてしまう。

可愛い乳児を寝かし、成長を楽しみにしているのに、安心して眠らせる事もできない。

学校が舞台なら、そこで暴れる人がいれば、学校に勉強をし、その勉強を糧に夢を掴もうとしている人の邪魔をする事になるし、争いもない学校生活を考えていた人にとっては、苦痛以外の何物でもなくなってしまう。

それをまとめる先生の心労は相当なものになり、精神を壊すのが当たり前前の環境になる始末。

壊され、落書きをされた物は、職人が精魂こめて作ったものだし、何より、人を殴り、痛めつけるというのは、その人の人生と、自分の人生を終わらせる可能性もあり、まわりの悲しみもついてまわるものだ。

実際は、多くの人に迷惑をかける行為がかつこよく感じられる。

これがTVや漫画の良さでもあり、恐ろしさでもある。

物語の中で、先生や、その他の人が、迷惑行為をを注意したら、注意された人は素直に従うだろうか。

人に迷惑をかける行為を故意にやる、反社会的な事を進んでやる人が、素直に聞くわけがない。

聞いていたら、物語が成り立たない。

聞いていれば、更生し、素直な人しかいなくなってしまう。

何より、素直に聞く事はかつこ悪く、注意した人＝敵の図式になり、キレられて終わりになる。

そう、近代になりよく聞くようになった、注意されたらキレる若者の図が、ここには明確に描かれているのだ。

犯罪 死刑制度から見る教育 4

漫画家は、自分の作品を読み、それを目指してくれた人がいると、なんとも言えない満足感を味わうそうだ。

自分の作品が評価され、それに憧れ、目指してくれる。

こんなに幸せな瞬間はないだろう。

自分の世界観が、現実の世界で表現されている喜びは、何にもかえがたいものではないだろうか。

少年誌に掲載された不良漫画の世界が、現実の世界で行われる。

他の人にとっては恐怖でも、作者は満足感に包まれているはずだ。

しかし、ここで私は一つ提案をしてみたい。

恐らく作者は、少年時代の経験から、そのような作品を作ったのだろうが、大人になった今では、その世界の感じ方が違いかもしい。

子供の視点で見ていた時は楽しかった行為が、大人の視点から見ると、全く違うものになっているかもしれない。

一度、漫画の作者というのを隠し、ただの教育実習生と名乗り、荒れてしまった教育現場に足を運び、イチ授業でもいいので、教えてみてはくれないだろうか。

それが無理なら、数日授業を見学するだけでも良い。

その現場で何を感じるか。

大人、そして先生の視点で見た、荒れ果てた現場、将来を担う子供達。

その子供達が育った未来。

もし自分に娘がいるなら、その娘と結婚してもよいか。

大きな課題を背負った日本を任せられるか。

色々考えて欲しい。

正解はない。

見て感じるだけでもして欲しい。

そして、漫画やTVとは、多くの人に見られるもの、影響力のあるものだということを思い返して欲しい。

私は、漫画やTVなどが、そういった世界を目指すきっかけになると場合があると言ったが、もちろん全てがそうではない。

読んでも目指さない人もいるし、私自身は、多くの場合、家庭などの環境に問題を抱えてる結果、そうなると思っっている。

親からの愛をもらえず育てられた。

優しさあふれる環境ではなかった。

周りが、道徳も愛も知らない人だらけだった。

憎しみがあふれていた。

だからこそ、壊したくなる。

面白くなくなる。

どうでもよくなってしまふ。

そついった環境で育つたなら、辛さも相当なものだろうし、そのよ
うな考えになる事も、自然なのかもしれない。

でも、壊すべき、ぶつかるべきは、無関係な人間だろうか。

誰かが精魂こめて作ったモノだろうか。

教育に夢を持ち、教師になった人だろうか。

否。

本来戦い、壊すべきは、その辛い環境だ。

憎しみに満ち、愛がないその家庭こそ、自分が辛いと思ってるその環境こそ、ぶち壊すべき、戦うべきモノではないだろうか。

前回、死刑反対論者に、心の教育を叫んで欲しいと言ったが、私は、心の教育を担う力は、不良達、そして不良漫画の作者にも、大いにあると思っている。

誰よりも辛さを知ってるからこそ、そうさせない世界を作る努力ができるのではないだろうか。

漫画には描けない更なる闇の世界を知ってるからこそ、その危険性も訴える事ができるのではないだろうか。

無関係のモノ、人を壊さず、その力を、愛がない世界を、自分が辛
いと思ってた世界を、壊す力に生かせないだろうか。

あの時こうされていたら、自分はグレなかった。

こういった環境なら、自分は踏みとどまれた。

辛さを、誰よりも知っているのは、自分である。

だからこそ、彼らはそのような世界を壊し、道徳が、愛が満ちた世界を作る力になれると、私は思うのである。

そのためには、まず勉強だ。

学歴は、人生で重要ではないが、そこで経験した頑張りや、知識は、絶対に自分の宝になっていく。

そして、勉強をするには、素直に先生の話しも聞いてみよう。

暴れるのをやめてみよう。

そうすれば、自然と周りの接し方が、世界が変わっていく。

命を狙われ恐怖を感じる日常より、暴れてすっきりする日常より、
新たな命を守り、育む世界と一緒に作っていいころではないか。

お金重視の社会

お金は、この世で絶対に必要なものだ。

お金を持っている、持っていないでは、生活様式も全く変わるだろうし、あるにこした事はない。

無ければ命を落とす場合もあるだろうし、誰でも欲しい。

しかし、あまりにもお金のみを重視してきた結果、その弊害が出てきているのではないだろうか。

例えば原発は、私個人の意見としては、電気を効率よく生む施設ではなく、効率よくお金を生む仕組み、施設だと感じる。

一度建ててしまえば、核燃料処理から、電力を生む仕組み、自治体に出るお金など、本当によくお金を生んでくれている。

しかし、その結果生まれたのが、今回の惨劇である。

一部の専門家は、原発の原価が安いと言っているが、本当にそうだろうか。

処理すら出来ずに困っている核のゴミ。

海外から仕入れ、やがて枯渇すると言われている原料。

難しい維持、メンテナンス。

使われる人員、費用は相当なものになるのではないだろうか。

更に、現在収束不可能になっている福島の状態。

それを見てもなお、原発利権に絡む者達は、原発存続を訴え続ける。

その理由がお金重視、拝金主義ではないだろうか。

ここまで、お金を生む施設は、そうそうないのである。

報道を見ると、現状で脱原発は難しいという。

現状なら。

これを聞いて、優秀な社長、経営者ならなんと感じるだろうか。

それなら、そんな現状をぶっ壊しちゃえ！

その現状を改善してやる！

と感じないだろうか。

現状が無理なら、仕組みを変え、電力自由化をし、国民の意識を変え、節電だったり、次世代エネルギーに力を入れるだけでも、相当変わるはずである。

しかし、ここでも電力自由化を食いとめようとする、お金に絡む勢力がいるため、実現は難しくなっている。

国民に安心、安全、安価なエネルギーを届ける仕組みを作るのなら、電力自由化だったり、次世代エネルギーに取り組むのは必須のはずなのに、それが出来ない。

出来ないのではなく、したくない。

一部の利権主義者によって、一般市民にしわ寄せがくる。

これは、日本だけでなく、世界中で起きている事、これから起きる事である。

お金重視の社会2

今回の原発事故で、涙を流した人は沢山いる。

避難区域にいた人は、もはや故郷には帰れないと覚悟した人もいるし、自分が生まれ育った土地に帰れない悲しみは、想像を絶するものだろう。

また、避難地区ではないが、値が高い地域の人の悲しみも相当なものだ。

自主的に避難するにしても、慣れ親しんだ土地を離れ、財産も捨て、風評被害まで覚悟で、違う土地でゼロからスタートしなければならぬし、住み続けるにしても、被爆必須の土地で、健康被害に怯えながら暮らさねばならない。

そして、病は、何の罪もない子供から蝕んでいく。

仕事をするにしても、精魂こめて育てた農作物が売れない。

農業だけでなく、あらゆる産業で、愛をこめて作ったものが、見向きもされなくなる。

価値がないと思われた絶望を、自分ではどうする事もできない悲しみを、味わった人もいる。

海を、川を、森を、罪もない人々の生活を壊した原発が憎い。

誰だって、絶対に安全と言われていた原発で、こうなる事がわかっていれば、賛成なんかしない。

もう、原発はいらない。

これからは、未来に安心してバトンを渡せる日本にしていこう。

誰もがそう感じるものだと思っていた。

しかし、驚くなかれ、原発推進派はいまだに多くいるではないか。

罪もない子供が、病に侵されるのは平気なのか？

自然が壊され、食の安全も侵され、そして何より、罪もない人々の生活そのものが侵されているではないか。

それでも、彼らは平気なのである。

彼らが悲しもうが、未来に課題を残そうが、今の自分が良ければいい。

今の自分に金が入ればいい。

直接そう言ってるわけではないが、私の偏見に満ちた、だめ男ならではの目から見ると、まるでそういつているように見える。

そんな事を言っではない。

お金が必要なのは事実だが、それは、この自治体の経済活性化には必要なものなんだ。

人々の雇用を生み、長く働ける職場があるというのは、地方自治体としては、嬉しいものではないか。

是非、我が町に来てほしい。

正しい事を言っているようだが、これこそまさに、人々の安心、安全よりも、お金をとった典型的なセリフではないか。

原発の前に、自治体の経済活性化のためにできる事は、検討したのか。

新たな観光、産業、雇用を生もうと、あらゆる事をやりつくしたのか。

安全神話が崩壊し、この危機的状況を知ってなお、受け入れなければいけない程、何もない土地なのか？

私は、そんな土地があるとは思えない。

むしろ、この現状を知り、脱原発で生き残る道を探す人のほうが、なんと賢く、素晴らしいリーダーなんだと思えて仕方がない。

今だからこそ、それは絶好のアピールチャンスになる。

脱原発をかかげ、新たな取り組みをする街。

それこそ、人々の関心を集め、観光と新たな産業を生み出せる街になれるはずだ。

安全神話が崩壊したが、次世代型原発は安全だと言う。

それは、飛行機が落ちても壊れない。

核燃料が高温になり、溶けても、絶対に外には出さない仕組みらしい。

しかし、原発の敵は、自然災害だけではない。

あえて、URLは貼らないが、もんじゅと常陽の事故原因を、各々調べてみてほしい。

私は、今回の福島事故も、人為的ミスだと思っているが、事故は自然災害だけでなく、人為的ミスでも起こりうるし、実際に起きている。

そして、その深刻さも、相当なものである。

何か事故があった時に、全てを帳消しどころか、破壊しつくす程の危険性を持つ施設が、本当に必要だろうか。

何かを挑戦する時には、リスクは恐れると言う。

しかし、失敗すれば、多くの人が死ぬ可能性、その危険性を未来に

まで残す危険性がある施設を、建設する必要があるとは思えない。

原発がないと電気が作れないわけではないし、電気を作る仕組みなんて一杯ある。

私の住まいからそう遠くない所に、女川原発があるが、原発建設時の話しを、関係者から聞く事ができた。

原発反対者の家に、電力会社の関係者が来て、驚くほどの札束を持ってきた。

それをされた人は、みんな急におとなしくなって、お金をふところに入れたそうだが、一人だけ例外がいたそうだ。

そんな金なんかいるか！

目の前につまれたウン千万の金をつかむと、それをボンと投げつけたという。

お金に負けない心構え。

これは、武士道が生きていた頃の日本人なら、珍しくないものであったが、今では失われつつある。

しかし、その失われてきている精神こそ、これからの我々に必要なものではないだろうか。

お金重視の社会3

あらゆる経済活動は、それすなわち、お金の活動とも言える。

しかし、お金のみに焦点をあててしまえば、あらゆるしわ寄せがくるようになる。

原発のように、効率よくお金を生むが、事故ってしまえば大変になるもの。

自然を大事にせず、経費削減のために、廃水などを浄化しないまま流せば、それが回りまわって、自分の健康を害する事になる。

お金のために、あらゆるものを偽造、模造すれば、市場は混乱し、食生活すら安全ではなくなる。

お金のために心売るのが当たり前になれば、人の心を救い、悪を裁くはずの裁判ですら、金で変えるようになる。

お金は身を守り、幸せを運んでくれる面も持つが、身の安全がお金でおかされる場合もある。

文明開化の時代、とある外人のボディガードをした武士は、外人からの金銭の受け取りを拒んだという。

お金の話をしようものなら、我々の誇りを、精神をバカにするのかと言わんばかりであった。

彼らはお金よりも、己の武士道を信じ、生きているのだ。

このような話を聞いた事があるのだが、これが本当か嘘か、私にはわからない。

しかし、この精神こそ、見習うべきものではないだろうか。

お金に左右されない自分の中の価値観がある。

そのようなものを手に入れた人は、あらゆる誘惑を断ち、自分を律する強さを持っていただろう。

体だけでなく、それ以上に心が強いのである。

そういった心を持った、お金に左右されないボディガードだからこそ、雇っている人も安心できるというものだ。

ここで勘違いしないで頂きたいのは、私は金持ちよりも、清貧を選べと言っているのではない。

お金を欲しがる気持ちを持ちつつも、お金だけに焦点を当てず、お金を使う人の心も育てられる教育、お金だけにとらわれない心構えを持つてほしいという事を言いたいのだ。

まるで金持ちを悪者のように書いてしまったが、多くの金持ちを、私は尊敬している。

大きなお金を得る方法は、大きく分けて2つあるそうだが

？他人のためになる事をしていた。

？自分が好きな事を、とことんやった。

どちらをするにしても、自分自身を成長させる心を持ち、目標を掲げ、それに向かって進んでいかなければ、達成できないものである。

目標を達成する過程で、自分自身の弱い心とも戦い、それを克服し、人格も磨かれ、多くの人は、人間的な魅力も増してくる。

実際、私が知っている社長、何かを達成した人などは、どの人も人格的に優れた人であった。

怖いのは、お金のみに焦点を当て、お金のためなら手段を問わない人である。

お金重視の社会 4

お金のために手段を選ばない人が増えれば、道徳は崩壊し、犯罪も増え、お金のない一般市民に、多くのしわよせがくるようになる。

お金が最優先なので、環境を壊し、人々を苦しめる結果になるのが、自分【だけ】が豊かになる事をメインに考えるようになる。

仕事にしても、会社に対する義理人情もなく、金重視の考えが蔓延してしまえば、お金を目当てに次々と人は流れて言ってしまうし、情報も売られるようになってしまう。

お金を重視した結果、逆に経済は不安定になり、アメリカの国債、日本の国債のように、とりかえしのつかない過ちも生むようになる。

政治家や、あらゆる分野のリーダーに、そういった考えを持った人

がいるなら、部下や、一般市民の苦しみは容易に想像がつくというものだ。

心ない人がリーダーになる事ほど、恐ろしい事はない。

もし、子育てをする時、いい学校に入れようとする親がいた場合、その先に見ているのが、多くの場合は良い会社に勤める事〓金持ちになる事ではないだろうか。

それ自体は、悪い事だとは思わない。

しかし、勉強を教えている事を、教育している事と勘違いし、勉強のみを教え、その先にある金の価値ばかりを教えるようでは、道徳

が育つ事はない。

教育とは、勉強 知識だけでなく、心のあり方を教える事も立派な教育であり、必ず教えなければいけないもののはずだ。

現代は、心の教育、他人に対する思いや愛などが軽視され、お金による価値が最優先で作られた世界である。

そのため、物質的な豊かさの研究は進んだが、心の豊かさには目を向けられる事は、少なくなってしまった。

幸せとは、お金の量で決まるのだろうか。

大富豪でも、日々ストレスに襲われている人もいれば、貧乏でも幸せを感じてる人もいる。

幸せの定義は、環境やお金が決めるのではなく、自分の心が決めているのである。

物質ではなく、精神が決めているのである。

お金を手に入れても、心ない人に囲まれ、犯罪者の影におびえていては、本当の豊かさは手に入らない。

お金も大事だ。

しかし、使う人の心も大事なのである。

人を愛し、自然を愛する人が増えた時、そして、そういった人々がお金を有効に使う時、これまでにない豊かさが訪れると、私は信じている。

お金重視の社会5

これはある日の、親子の会話である。

母

アキ君は、将来どんな大人になりたいの？

息子

僕は将来大金持ちを目指して、いい車に乗って、大きなお家に住むような社長になりたい。

母

そうなのね。でもお金の魔力って凄いの。だから、アキ君は、その魔力に負けず、皆にも優しく接する事ができて、自然も、人も愛せる社長さんになってほしいな。

息子

お金の魔力ってなあに？それに何で、優しかったり、愛がなければいけないの？

母

お金が手に入れると、人は自分勝手になったり、謙虚さを忘れたりして、お金を得る変わりに、自分の中身を、特に思いやりを失う人が多いの。

お金の魔力が凄いから、周りの人の態度も変わるし、それを見て、自分も簡単に変わってしまうの。

アキ君が素直な子でなくなったら、お母さんは悲しいわ。

息子

でも、お金があればいいじゃないかな。なんでも欲しい物は手に入るし、僕の性格がどんな風になろうと、人は寄ってくるし、楽しい生活ができるさ。

母

損得のみで、お金の感情のみで繋がった友人というのは、多くの友達も、損得勘定で貴方を見るようになるわ。

貴方が本当に困った時、無一文の時にさえ助けってくれる本当の友達がほしいなら、貴方自身の人間性も磨いていかなければならないの。

お金目当てではなく、貴方の人間性を目当てにくる人こそ、本当の友人になれる人よ。

多くのお金持ちが忘れるからこそ、貴方が優しさ、思いやり、謙虚さを持ち続けた時は、大きな武器になるわ。

息子

そうなんだね。でも、謙虚って何で大事なの？

僕が見る金持ちはみんな威張ってるし、正直性格も悪そうだよ。でも、お金を一杯持つてるんだ。

母

例えば、お母さんに優しく丁寧に話してくれる社長さんと、乱暴に接する社長さんがいたら、アキ君はどう思う？

息子

お金持ちなのに、お母さんに気軽に話してくれるって、凄い人の良さを感じるし、友達にも、お母さんがあの社長としゃべった。いい人だったって言いたくなるな。

逆に、乱暴だと、何あの人って、僕も怒りたくなるかもしれない。

母

そう、お金を持っていると、今までとは影響力が全く違くなるの。

悪い態度で接すれば、恨みを買いやすくなる。でも、逆に謙虚で優しいなら、それだけで、凄い人だと思わせるものがあるの。

お金の魔力に負けず、横柄にならない強さを持っているんだもの。

こんな話があつて、昔、日本の首相だった、田中角栄って人は、実はとても謙虚だったと聞いてるわ。

首相という立場にありながら、目下の人にもこれを教えてくださいと、自ら頭を下げ、色々教えてもらう。

首相がそんな態度だから、周りも喜んで手助けしたの。

それと、とある社長さんが、ある日電車の行き先を聞かれたの。

その社長さんは電車の行き先を教え、教えられた人は、教えてくれた人が見えなくなるまで、深々と頭を下げたそうよ。

実は、二人とも社長で、教えた人だけが相手が社長だと気づいたそうだけど、相手の身分も知らず、最後まで深々と頭を下げ続けた社長の態度にとっても感動して、会社の製品を全てとり変えたの。

深々と頭を下げ続けたその社長は、松下電機の社長、そして会社の製品は全部松下になったの。

謙虚でいる事は、恨みを遠ざけ、幸せを呼び、貴方の人生をより豊かにしてくれるはずよ。

息子

わかった。僕は自分も家族も、そして色々な人も大事にできる社長を目指していくよ。

謙虚さを忘れず、自分の性格も磨いていく気持ちを持ち続けるね。

そういえば、僕はまだ社長じゃないけど、幸せだった。

優しいお母さんとお父さんがいるから。

これは私の脳内の会話であるが、一部真実を載せた。

謙虚さがある人物の、なんと素晴らしき事か。

戦い 争いの形

私は、戦う人を見るのが大好きである。

強くなるために頑張っている人を見るのも好きである。

空手、柔道、ボクシング、総合などなど。

日々努力を重ねて作られた精神と肉体のぶつかり合いは、見ていても胸が熱くなる。

そして、その強さを追求する過程で、己の肉体的、精神的限界も乗り越えていく、

頑張る人を見るのは、自分も元気がもらえて、とても気持ちの良いものである。

昔の日本では、いつ争いが起きるかわからない、日常的に人が殺されてもおかしくない環境にありながら、武士道に代表される精神性の追求もし、そんな時代の中でも狂人にならず、紳士的な態度をとる事が出来るほどの、精神的な文化の高まりを見せた。

もちろん、狂人になった例外は多々あると思うが、自分の内なる精神を鍛え、それを教える事ができる文化があったというのは、誇らしく思えてならない。

ところが、今の世では、戦い、争いになった場合、そういった精神性が入り込む事はなく、ただ、痛めつけるのが目的になっていると思えて仕方ない。

以前、例えに出した不良漫画にしても、一人を大勢で傷めつけたり、後ろから殴る、武器で痛めつける、人質をとるなど、正直これが少

年漫画の世界でいいのか？と思えるものが氾濫しているし、実際の戦いも、そのようなものになってきている。

これは、私が経験し、見た世界の話であるが、喧嘩をしようとした場合、まず仲間を呼び、数で上回る。

武器は平気で使うし、もし返り討ちにあえば、更に仲間を呼び、痛めつけるだけだ。

私も若い頃に何度かトラブルに巻き込まれた事があるが、私一人に対して、数人が絡んでくるのが当たり前。

一人で来たのは、薬物中毒者とボクサーのみであった。

海外にいたっては、このようなレベルの話ではなく、先進国でも、遊びや、ささいな事で人を殺す人すらいる始末で、道德の崩壊を感じざるを得ない状況である。

参考動画

<http://www.nicovideo.jp/watch/sm1376333>

戦いとは何だろうか。

もし、その矛先が自分に向いている、もしくは自分が向けたいと思ってるなら、戦いとは、自分の名誉を守るものであると考えている。

そこに手段を問わないという発想があり、卑怯な手段を用いて相手を傷めつけても、私は満足感には浸れないし、するべきものではないと思っています。

素手で済むなら素手で終わらせたいし、大勢ではなく自分自身で相手と戦いたい。

なぜなら、それは、自分自身の名誉を守るためであり、自分の問題だからだ。

素手は、まさに自分自身である。

強くなるだけなら、子供が銃を持ち、ナイフを持っても強くなれる。

誰だって強くなれる。

だからこそ、凶器に走ることなく、自分の力で戦おうとする姿はカッコいい。

卑怯じゃないからこそかっこいい。

そう言った意味で、私は、漫画の世界の修羅の門の陸奥一族、バキの世界観にとっても惹かれる。

昔の武士にとっては、刀が自分自身とも言えるものになってたと思うが、今は時代が違う。

人を殺すのが当たり前、刺すのが当たり前の時代ではない。

それに、そのような時代にいながら、武士が素手の敵を、卑怯な手を使い殺していたとも思えない。

戦うなら、卑怯な手段を使わない。

新たな憎しみを生まない手段としては、非常に良い考えだとは思いますが、私はそれ以上に良いと感じる手段を知っている。

憎しみが自分自身に向けられ、戦いたくなる原動力が自分自身にあるのなら、その憎しみを受け止め、受け流せる人になれば良い。

自分の問題なので、自分が笑顔で受け止めてしまえば、戦いにすらならない。

しかし、それをできる人は、並大抵の強さの持ち主ではない。

戦い、怒れる気持ちを抑える程の強さを、大きさを持たねばならない。

冒頭の話をもう一度言わせてほしい。

私は、戦う人を見るのが大好きである。

強くなるために頑張っている人を見るのも好きである。

しかし、誰もが争いたくなる場面で、笑顔でいれる、争いを起こさない強さを持った人は、もっと好きである。

戦い 争いの形 2

しかし、戦いには種類がある。

自分に向けられた悪意は、自分で受け流が事ができるが、喧嘩やトラブルというレベルではなく、悪意ある勢力によるものだったり、明らかな犯罪だった場合は、断固として戦わねばならない。

戦わなければ、死か、悪による支配が待っている。

あなたの国では、心ない人がリーダーになり、人民を苦しめていないだろうか。

犯罪を平気で行う組織が、そこかしこに影響してないだろうか。

そういった連中と戦わなければ、現状は変わらない。

しかし、戦うとは、何も相手を肉体的に傷つける事だけを、戦うと言っているのではない。

不当な勢力の勧誘を断る事。

この世界を変えようと、自分自身が勉強し、政治家や、何らかの分野でリーダーを目指す事。

不当な勢力の現状を、記事やブログで訴える事。

自分自身が悪に染まらない事。

これらも全て戦う事であり、傷つけあわなくても、戦える手段はいくらでもある。

過去、日本は銃社会であり、そこかしこに武器がある社会であった。

刀のイメージが強いが、銃の所持数もかなりのもので、所有数は世界一だったという意見すらあるほどだ。

所有数世界一の意見は、異論も沢山あるので、数が多い例え程度として聞いておいてほしい。

しかし、現在の日本を見渡してみれば、銃や刀は、極々一部の人間しか持っていない。

安土桃山時代に刀狩と呼ばれるものが行われ、一般市民の武器の使用は禁じられ、些細な喧嘩で武器を用い傷つけたり、すぐに紛争を起こす、などの行動を制限できるようにした。

それを機に、一般市民の武器所持率は、激減する。

それから何年も時が経ち、西南戦争や、第一次、二次世界大戦を経験する事で、日本国内の武器所持は、再度珍しくない時代に入るが、銃砲刀剣類所持等取締法などの効力を使い、またもや武器の所持率を劇的に減らす事に成功している。

国外の力を借りた例もあるとはいえ、日本では、恐らくアメリカでは不可能に近い武器の規制を行い、それを成功させている。

これこそ、世界も辿るべき道ではないだろうか。

昔の日本では、領土問題や、他の様々な問題を、殺し合いで解決したこともあった。

しかし、今では、話し合いがメインであり、殺し合いは決してメイ
ンには成りえない。

世界中で、刀狩のように、武器を減らせる事ができれば、治安問題、
犯罪の凶悪レベルも激変する。

もちろん、道徳などの心の教育、安心して武器を渡せる仕組みを作
らなければ、安心して武器を渡せるものではないので、ただ武器を
よこせと言っただけでなく、まずは心の教育ありきの問題だと、私は
思っている。

私の独断であるが、主人に使える、目上の人には敬うなど、そういった文化が浸透していた日本だからこそ、刀狩は成功したのだと思えてならない。

戦い 争いの形。

武器を持った愚か者が喧嘩をすれば、命は奪われるだろう。

素手の愚か者が喧嘩をすれば、大けがをするだろう。

武器を持たない賢者が喧嘩をすれば、話しあいでも解決するだろう。

更に賢い賢者なら、争いの中から改善策を見つけ、お互い歩み寄り、仲良くなれるだろう。

しかし、本当の賢者なら、争う原因を作らないほどに自己を磨き、
平和の道を探求し続けるのである。

戦い 争いの形3

日本では、坂本龍馬が活躍した時代は、今では考えられない激動の時代だったと感じる。

ペリー来航（1850年代）で、今までに見たことがない武力を目の当たりにし、他の国々にも、不利な条約をつきつけられる。

さらに、この時代には、1850年代付近だけでも、1847年
善光寺地震 死者一万人以上、 - 1854年 安政東海・南海
地震 両地震合わせて死者3万以上の説も。1855年 安政江戸
地震 - 死者4,700〜1万1,000人と、とんでもないレ
ベルの自然災害にも襲われ、さらに、日本の内部も、古くから続く
幕府の体制と、それを倒そうとする勢力が争っている状態で、内部
も外部も混とんとしている状況だった。

わかりやすく言うなら、自然災害で混乱し、弱っている国に、今
で見たことがない、圧倒的な武力を持った勢力がやってきて、不利
な条約をつきつけていくし、脅される。

さらに政治も混乱しまくりで、殺し合いも平気で起きていた時代。

今なら、国内が混乱してる中、悪い宇宙人が襲来するようなものか。

本当にすごい状況だ。

しかし、日本が優秀な人材であふれていた時代も、間違いなくここだろう。

圧倒的な武力差を目の当たりにしても、時間を稼ぎ、その間に技術を盗もうとした人もいた。

力の差にひるむ事無く、戦いを挑んだ人がいた。

今なら、誰しもが絶望するような状況にありながらも、日本を守るためにできる事を考え、それを実行する人であふれていたのである。

その結果、偉大な先人達のお蔭で、様々な困難を乗り越え、日本は植民地にならず現在に至っている。

戦後の教育は、日本人の大和魂を育ちにくくし、その後のゆとり教育では、学力までも低下する結果をまねいている。

しかし、我々日本人は、間違いなく偉大な先人たちの魂を継ぐ者で

あり、根本には大和魂が宿っている。

震災後、多くの人が、この国のリーダーや、企業には、心がない人が多い事に気付いた。

震災ではなく、人災が大きな被害を及ぼす事に気付いた。

これは、日本だけの問題ではない。

一部の心無い権力者のしわ寄せで、罪のない人々が苦しむ事が、世界各地で起こっている。

そして、それをなんとかしなければいけないと、気付く人達が増えてきた。

我々は、そういった心無い勢力と戦わなければならない。

他国では、市民が武力に訴え、改革に成功した所もあるが、今の日本では、武力による改革は成功しえないし、武力に訴えた時点で負けになってしまう。

原子力問題、政治の腐敗、日本を脅かす、その他色々な問題。

良くしなければいけない問題は山積みなのに、日本では、我々一般

市民は、簡単に改革に参加出来ない仕組みが作られてしまっている。

そして、多くの人が良くしたいなとは思いつつも、自分が動いても変わらないだろうと、無関心になってしまっている。

無関心では何も変わらない。

自分で出来る事は何か、私も含め、一緒に学んでいこうではないか。

まずは、国を変える事に関心を持つ事、そして、できる事を探そうとする事が大事である。

そして、戦いとは、他人と戦う事が戦いと思いがちだが、自分自身と戦う事も大事なのを忘れてはいけない。

誘惑に負けない心、人を思う気持ち。

自分がリーダーや政治家になったら、こんな思いはさせない。

そういった気持ちを持ち続ける人が増えれば、必然的に国が変わる。

国は、一人一人が作っているものなのである。

一人の意識が変わり、それが当たり前と思える環境ができれば、国が変わっていく。

国を変えようとする心を持ちつつも、自分自身の心も改革して
いこうではないか。

貴方も間違いなく、改革者の一員なのだから。

戦い争いの形 4

今回は、格闘技や武道を教える人、それを習っている人について語りたい。

最近は、戦いをテーマに記事を書いているが、私自身、格闘技を見るのは大好きだ。

素人レベルではあるが、柔道、柔術、空手の経験があるが、練習も見る事同様、楽しく出来れば良かったのだが、空手の練習に関しては、体中にアザができるし、痛さで歩くのもおっくうになるし、道場に行くのが怖いなと思いつつ通っていた。

それでも通っていたのは、単純に強くなりたいという願いだけだったのだが、強さとは、肉体的に強くなる事のみが強いというのだろうか。

以前、優しさとは強さだという意見を述べた事があるが、他にも誘惑に負けない強さだったり、某漫画の言葉を借りれば、己の我がままを通す力だったり、強さには、一つの定義は存在していないと感じる。

日本では、子供に格闘技を習わせる場合は、肉体的に強くなってほしいという願いの他に、礼儀正しく育ってほしいとか、人の痛みがわかる人になってほしいとか、体の成長の他に、何かしらの心の成長も求めているのではないだろうか。

ところが、最近は格闘技を習った人、教える人でも、人間性にハテナがつく人が多くなってきているのでは。と思う事が多々ある。

平気で他者に罵倒を浴びせたり、俺は格闘技をやってるんだぞと、いばるような態度の人を見かけたりする。

また、某ネット内の格闘技の質問コーナーでは、格闘技経験者が他者に暴言を吐くのが日常化。

規制が厳しくなり、それらが影をひそめると、他の人の書き込みも見られるようになったのだが、多くの人が、今まで怖くて書き込みませんでしたと意見を寄せていた。

ある道場を見学した際には、お前ら喧嘩はしてるか？喧嘩したら負けんなよ、とまるで生徒をあおるような発言をしている先生がいて、あまりに腹が立ち、早々とその場を去った。

喧嘩したら負けるなよ については、大いに同意するが、喧嘩をし

ないような人間性を育てる事も重要ではないだろうか。

自分が強くなったと思って、態度をでかくする。

他者に暴言を吐く。

暴力をちらつかせる。

私には、何かあれば拳銃や刀をちらつかせる連中と、何ら変わらないもののように感じる。

私は、刀を鞘に入れ、紳士的に振る舞う武士には憧れを感じるが、些細な事ですぐに気分を害し、すぐに刀を抜く武士には、何も感じない。

刀を見れば、相手は簡単に態度を変ええるだろう。

しかし、それをせず、自分の力で怒りを抑え、紳士的に振る舞える武士のなんと素晴らしい事か。

格闘技を習うというのは、自己防衛のため、自分を肉体的に強くするため、更に根底を突き詰めれば、戦争やあらゆる戦いの場で生き残るための手段であると思っている。

しかし、日本人の私の感覚としては、そういった戦いの場でも、精神性を求めたいという思いがある。

ただ人を傷つけるだけでなく、戦いの中にも武士道という生き方を示してきた民族だからこそ、ただ単に戦う、傷つけるだけでなく、精神性も求める。

それは武道を習う側、教える側も一緒ではないだろうか。

いじめる側にも、いじめられる側にもならない。

無駄な争いを避ける気持ちを持ち、いざという時にこそ発揮できる強さを磨く。

これが備わるだけでもだいぶ違うと思うのだが、普段はいばるのに、

いざという時には逃げ腰になる。

弱い者いじめを平気でし、他者に平気で暴言を吐く人が増えている現状は、悲しく思えて仕方ない。

心無い暴力は、テロリストとなんら変わらないのではないか。

心と体の成長があればこそ、武道に取り組む意味があると、私は思っている。

正義のヒーローは、いつも悪の敵と戦っていた。

同じ戦いの道を目指すなら、人々を困らせる悪の暴力ではなく、人々を救える正義のヒーローの側であってほしい。

心がない人が身につければ、困る人々があらわれるのは、お金でも、権力でも、暴力でも一緒だ。

教育の問題と同じように、ただ勉強を教えるのではなく、心ありきの教育をしてほしい。

それと同じように、私は格闘技、武道にも心の教育を求めています。贅沢者なのである。

もしも頑張れだめ男が政治家だったら

いつも独りよがりな記事を書いているのだが、今日は政治のせの字も知らないだめ男だが、政治について語ってみたい。

震災後、政治や歴史について色々調べるようになったのだが、だめ男の私から見ても、この国はだめだらけな気がしてならない。

そこで、簡単ではあるが、ここにだめ男 独りよがりのマニフェストを発表したい。

1、原発収束。

東電主導の原発収束作業をやめ、国（国外も含む）とあらゆる企業が一致団結して収束できる環境を作る。幅広い情報の公開も必須で取り組む。刑事責任も視野に、原因追究をし、原発に頼らない国作りを目指す。

2、電力自由化。

電力自由化を導入。原発を無くす事で、逆に経済の活性化を目指す。

3、早期英才教育、心と体の教育導入。

ゆとり教育の廃止。早期英才教育、心の教育、スポーツ教育の導入をする。子供だけを教育するのではなく、親も成長する事が大事なのを伝える。

英才教育、ボケ防止など脳の活性化と、家族団らんのためには非とも推奨したいのが、将棋、囲碁など、右脳を使う競技である。

上達してくると、イメージの盤の中で対局をし、更に最初から最後までの手順を覚えるようになる。

とある棋士が、僕の兄弟は頭が悪いから東大生になった。

僕は頭がいいから棋士になったと言ったといわれているが、右脳を使う競技は、想像力、暗記力、計画性などなど、色々なものを与えてくれるのではないだろうか。

そして、年代問わずそれに取り組むようになれば、家族の共通の趣味として一家団らんにも一役買おうと思うのである。

孫と将棋を打つ。

そんな光景が当たり前にあってもいいかなと思うのである。

4、国債の減少に取り組む。

国の無駄使いを徹底検証し、より少ない費用で最大の効果をもたらすものを採用する。その際、環境負荷も計算に入れる。圧倒的な環境負荷＞経済効果にならないように、経済効果、環境負荷も計算に入れて国を作る。

例）原発は、お金は生むが、環境負荷がでかいので不可。環境と経済の数式化も可能か？

現在の政治は、少ない費用で最大の効果ではなく、税金を無駄使いしても、自分のふところが温かくなるような使い方をしている気がしてならない。

環境負荷も視野にいった、徹底的な無駄の削除。それと、日本の発展による経済効果を望めるような様々な改革を視野にいれる。

5、天下りの規制。

天下りの廃止、もしくは必要な天下りと、そうでないものを徹底検証する機関を作る。無駄が多すぎると感じる。

6、 国家公務員制度見直し。

学力重視でその後の出世も決まってしまう公務員制度の見直し。

7、 外国人賛成政権の反対。

8、 海外の不当な圧力に負けない国作り。

国外からの不当な圧力、乗っ取り、コントロールに負けない法案の成立を目指す。スパイ防止法含む。

9、TPP反対。

10、研究、開発の迅速化。

医薬品、その他の理化学的研究で、国が許可を出すスピードを迅速化する。その他、国が障壁を作っていると思われるものを検証し、研究の多様化、迅速化、実用化を目指す。

1 1、期間限定で消費税引き下げ。

1 2、生活保護の見直し。

何の障害もなく、五体満足な人でも生活保護受給をしている状態から、個々の状況に合わせて必ず働ける環境を提供できるようにする。

刑務所では、ほとんどの人が労働している。個人に合わせた労働環境の提供方法で、生活保護の形は変えられるはず。

13、これらの改革は、一部の専門家、社長、会長などからの意見を重視しない。一番参考にするのは、現場の意見、幅広い国民の意見とする。

現在の政治は、国民主導ではなく、政治家が作りたい、やりたい政治になっていないか。

平気でマニフェストが次々に破られる現状。

国民にとって利益になる政治を吟味し、実行していきたい。

14、入党資格は、金銭欲に流されず、政治で命をかけられる人のみとし、国民が過ごしやすい国を作る事を第一に考えられる人とする。また、入党する人もあらかじめ大臣を目指したいと言った人を、

率先して入党させていきたい。

ワイロで意見を変える。脅されて意見を変えるでは、今の日本は変えられない。命を狙われてなんぼと思える気持ちの強さも必要ではないだろうか。

私自身も命の危機を感じる事を体験した事があるが、狙われる感覚というのは、あらゆるストレスの中で、最上級のものだと思った。

戦国時代や、古来の日本人達は、そういった感覚と上手につきあう事が出来る程、強烈な意志力があつたのだろうが、それこそ見習うべき精神だと思う。

また、現在の大臣任命制度は、専門家と呼ぶには頼りない大臣が、行き当たりで任命されているのかと感じる時があるが、政治家になるだけでなく、目的意識をきちんと持った人物をきちんと選べる。入党させる仕組みも大事だと感じた。

やらされる仕事より、やりたい仕事のほうが効率が上がるのは、政治も同じではないだろうか。

15、柔軟な対応。

古い形にとらわれず、現状にあった対応をとる。現在の状況で考えるなら、脱原発。まだ実施されていない電力完全自由化。

政党名は、国民と自然の党。

国民と、自然を大事にする事をモットーとする。

すでに取り上げてたものもあるので、その他のもので、詳細に説明したいものをこちらにあげる。

一番大事だと思うのが、国民の事を一番に考えられる政治、金に流されない政治。

政治の事を調べると、黒すぎるほど黒いと感じた。

もちろん国民の事を思って動いている人も沢山いるとは思いますが、国を強くする、国を豊かにするよりは、自分のふところを豊かにする事ばかりにとらわれている人が多すぎると感じた。

あらゆる利権と繋がっていて（黒いのも含む）それがいい結果を生むならまだしも、ただの言いなりになる。

もしくは、自分のサイフのみを考えた政治になり、国民の生活がな이가しろにされてきているのではないか。

これからの政治家には、金に流されず、命をかけれる幕末の志士のような心構えが必須だと私は思っている。

幕末の志士たちは金のために頑張ったのだろうか。

私はそうではないと思っている。

純粹に、日本を良くしたい。その気持ちの元に命をかけていたのではないだろうか。

今、求められるのは、そういった純粹さである。

改革には反対勢力もつきものであるが、そういったものに流されず、国民のためを思い、意志を貫き通す心構えを持てる政治家が集まれば、素晴らしい力になるはずだ。

TPPについては、日本を守るために反対したい。

賃金が安い労働力が入れば、会社の成績は上がるかもしれない。

TPPが導入されれば、今までより安く、多くのものが手に入るかもしれない。

お金の面だけ見れば、確かに良い事が沢山ありそうだ。

しかし、競争は激化し、一部が活性化する一方で、すたれる業界も多発するのではないかと思っている。

今の日本は色々な面で弱り切っている。

この状況で、更なる国際競争力に巻き込まれたら、生き残れるだろうか。

お金を重視し、海外から安易に労働力を入れた場合、会社の成績が上がっても、地域の治安の悪化や、労働賃金の低価格が広がり、自らのクビをしめる結果になった国もあると聞く。

海外から、何かを取り入れる時は、お金の面では測る事の出来ない、心の満足度だったり、治安問題だったり、他にも様々な問題が発生する。

まずは、TPP問題より、自らの力で強い日本を作る事を念頭に置いていきたい。

経済について発展していると思う国でも、現在ではほとんどの国が財政難に陥っている。

お金の教育が発展してきたはずなのに、お金に困っている矛盾。

これこそ、お金を重視してきた弊害であると私は思っている。

いついかなる時でも贅沢したい。未来の子孫達に平気で課題を残し、借金をする。

借金が大きくなる前に、国民に知らせる。

未来に課題を残すのではなく、今やれる事をやる。

こういった時に必要になるのが、耐える心だったり、未来を思いやったりする心なのではないだろうか。

山で山菜取りをする。海で漁業をする。

とれば取るだけ儲かるであろう。

しかし、次に来た人は山菜取りや漁を楽しむ事はできないし、このままでは自然はいつか枯渇する。

私は、お金の問題だけではなく、人々の心の問題で借金が大きくなった側面もあると思えて仕方ない。

そういった目に見えない、心の問題を考えると、私は、TPPは反対なのである。

そして、現場の意見重視について。

とある番組で、天下りや、公務員の問題について改革すべき事を、五人の現役官僚が素顔をだし述べたのだが、その官僚は、この発言を言うには勇気があるだろうなと感じる発言を連発していた。

現場にいる人が、国民目線、自分の利益より国民の利益を重視した場合、政治家や専門家目線では考え付くのが難しいのでは、と考えるような素晴らしい意見が次々と出ていた。

TVタックルに出るようになった、元官僚の人も、毎回素晴らしい意見を言ってくれていると感じる。

多分、今の東電や、原子力委員会も、ごく一部の人は、自分の会社が不利になろうとも、国民のためにここをこつするべきだ。と、様々な改革案を言いたくなってる人もいると思う。

そついった人の意見や、多くの国民の意見を重視して、一部の利権者ではなく、多くの国民が過こしやすい国作りをしていけたらなと考える今日この頃であるが、こういったものは、一人が妄想したところで、何ら変わりはない。

同じような志を持った仲間が集まる事で、本当の影響力が発揮される。

大きな危機は、大きな改革のチャンスでもあると思っているが、今の日本には、日本を良くしたいと思っている人が非常に増えていると感じる。

そんな人と巡り合えるような人生を送っていかなばと思う誕生日であつた。

もしも頑張れだめ男が政治家だったら2

今回はだめ男が政治家だったら、だめ男が何らかの形で世の中に影響を与える事ができる人間だったらで妄想話をしたい。

1、原発収束問題について

原発問題は前回の記事にも書いたが、最重要課題だと思っている。

しかし、専門家ではないので、対処方法について、ここで具体例をあげる事は出来ないが、ある二つの選択肢については、明確に答えを出さなければいけないと思っている。

それは、避難させるべきか、そうではないか。

理想を言えば、絶対に避難をさせるのが正しに決まっている。

チェルノブイリでは避難地区の大体の目安が、年間5 mシーベルト位と聞いているが、日本では20 mシーベルトまで問題ないと言っている。

チェルノブイリでは、既に10年以上にわたるデータの蓄積があり、どんな健康被害が出るか明確にわからなくても、体にいいか悪いかは判断できるものだと思っている。

実際は結構明確にわかってきてると思うのだが。

もし、5 mシーベルト以上でも安全と判断されれば、避難解除になり、そこには人が帰ってくるのではないだろうか。

今、それをチェルノブイリ付近で行ってない事が、危険性の何よりの証拠になってはいないだろうか。

それを考えれば、やはり20mシーベルトという値は高過ぎであり、国民を見殺しにしているとは思えないのである。

しかし、チェルノブイリ地区とは事情が違い、日本の場合は人口密度も高く、国土も狭い。

おいそれと他国に行くわけにもいかず、自国内でどう対処するかが問題になる。

現在、チェルノブイリとは比較にならない程多くの人々が被ばくしていると思うが、それら多くの人を移住させるには、国の資金面から見て厳しいものだと考えている。

避難させるのが正しいが、それをしてしまえば、国がパンクしてしまうのが、今の日本の現状だろう。

だからこそ、その場しのぎの嘘でごまかしたり、情報を操作したり、基準値を大幅に改悪したりして乗り切ろうとしている。

でも、これは何の解決にもなっていない。

国民の命を犠牲に、問題を先延ばしにしているか、なかった事にしようとしているだけであって、それが続けば続くほど、犠牲者は増え、子孫に安心して暮らせる日本を渡すのは、どんどん難しくなっていくだけだ。

国のお金はなくても、きちんとした情報公開は必須だと考えている。

これを踏まえ、私の偏見に満ちた、だめ男マニフェストを発表し

たい。

危険性を公開したうえで、住む人、自主的に避難する人をわけろ。しかし、子供は自主避難よりも上のレベルの避難にし、その家庭を援助する仕組みを作る。

濃度が高くて住み続けたい、または住んでもいいという人のために、以下の事に取り組む。

- 1、放射能経済特区の設置
- 2、放射能の値が高い地域の消費税軽減。他の税金も軽減。
- 3、財政が確保できれば、避難に移る。

私は現在被災地に住んでいて、福島にも知人が沢山いる。

国が何もしないなら、せめて自主避難をしてほしいと思い、そういった人達に、海外の放射能のデータ、動画、そして危険性を示したデータを見せても、驚くほど反応がない。

そんなに騒いでも意味がないと考えてる人、大丈夫と思ってる人、そして、それを覚悟して、すでに受け止めている人。

色々な人がいるが、共通している意識は、例えば放射能があっても、ここに住み続けたいという意志だ。

危険を覚悟で住み続ける人も多くいるのだと肌で感じたのだが、そういう人にとっては、放射能よりも、避難のほうが辛いのだと感じた。

そういった人には、無理に避難をさせず、住み続ける事を止めない。

しかし、年齢によって影響は異なるので、若い世代に関してはそれを簡単に許可せず、逆に影響が出にくい高齢者にとって、住みやすい街にしていき、放射能と上手に付き合う街づくりをしていきたい。

何度も言うが、理想は濃度が高い所は総避難であるが、それが財政的に苦したため、不可能の前提で話しをする。

影響が出にくい老人にとって住みやすい街を作る。

人によっては、居住地のトレードもあってもいいかなと思っている。

とある町に住む老人Aさんの家と、福島に住むBさんの家を交換。

もしくは、お互いの利益になるように、売買する仕組みを作る。

これにより、避難の活性化も促す。

高齢者が多く、彼らにとって住みやすい街を作るというのは、実は未来の日本の課題でもある。

高齢者の街としてのモデルケースとして、老人が働ける街、楽しめる街になるよう様々な活動をしていきたい。

そして、残酷ではあるが、高濃度になってしまっている福島には、瓦礫を処分できる施設を大量に作り、高濃度廃棄物を閉じ込めておく仕組みを作りたい。

瓦礫を燃やす事は、放射性物質を巻き散らす事になってしまう。

全国各地で処分すると言いたいところだが、汚染範囲を狭め、放射性物質を閉じ込めるためには、必要な事だと思っている。

しかし、私が達成したいもう一つの目標は、脱原発である。

原発施設から出る、どこでも処分に困っているような、処分可能な使用済み核燃料などは絶対に受け取らない。

あくまで、瓦礫や、今回の影響で出た、高濃度放射性物質に限っての事である。

これを達成するために、私が一番最初にしなければならない事。

それは、福島 皆さんに頭を下げ、日本国民のために涙をのんでくれと頼む事である。

放射能の影響をきちんと説明する事である。

私が、かつては永住したいと考え、数年住んでいた福島の人々に頭を下げる事である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2633u/>

31歳だめ男が、日本、世界に送るメッセージ。

2011年10月14日15時59分発行